

愛知医科大学学報



オープンキャンパスで人気のドクターヘリ見学
(関連記事5頁)

＝ 第155号 ＝

2019. 7月

愛知県長久手市岩作雁又1番地1

〒480-1195

学校法人 愛知医科大学

愛知医科大学ホームページアドレス

www.aichi-med-u.ac.jp

■ 主な目次 ■

2020年度学生募集概要	2
2019年度オープンキャンパス開催	5
平成30年度愛知医科大学決算	6
あいち小児保健医療総合センターと協定	14
A・IMAT調印式挙行	14
令和元年度キャンドルセレモニー挙行	19
短期留学体験記	22
病院長所信表明	26
Smile ～スマイル～	49

2020年度医学部医学科学生募集概要

医学部医学科の入試日程等は次のとおりです。

◆入試日程						
区 分	募集人数	出願期間	試験日	試験会場	合格発表日	
推薦入学（公募制）	約20名※1	11/1～11/8 [消印有効]	11/16	本 学	11/25	
愛知県地域特別枠入学A方式	約5名※2					
国際バカロレア入学	若干名					
一般入学	約65名	12/9～1/9 [消印有効]	第1次試験 1/21	名古屋, 東京 大阪, 福岡	1/27	
			第2次試験 1/30・31 (いずれか希望する日)	本 学	2/6	
大学入試センター試験 利用入学	前期	約15名	12/9～1/17 [消印有効]	第1次試験 1/18・19 大学入試センター試験日	大学入試センター 試験会場	2/6
				第2次試験 2/13	本 学	2/20
	後期	約5名	12/9～2/21 [消印有効]	第1次試験 1/18・19 大学入試センター試験日	大学入試センター 試験会場	3/2
				第2次試験 3/6	本 学	3/12
愛知県地域特別枠入学B方式	約5名※2	2/14～2/21 [消印有効]	第1次試験 1/18・19 大学入試センター試験日	大学入試センター 試験会場	3/2	
			第2次試験 3/6	本 学	3/12	

※1 国際バカロレア入学若干名を含む。

※2 愛知県地域特別枠入学はA方式・B方式合わせて10名を選抜。

◆入試科目・配点・時間					
区 分	出題教科	選考方法及び出題科目	配 点	時 間	
推薦入学（公募制） 愛知県地域特別枠入学A方式	小論文		5段階評価	60分	
	基礎学力試験 (数学)	『数学Ⅰ・数学Ⅱ・数学Ⅲ・数学A・数学B（数列・ベクトル）』	100点	60分	
	基礎学力試験 (外国語)	『コミュニケーション英語Ⅰ・コミュニケーション英語Ⅱ・コミュニケーション英語Ⅲ・英語表現Ⅰ・英語表現Ⅱ』	100点	60分	
	面接（個人面接）		5段階評価	—	
国際バカロレア入学	書類選考・適性検査・面接（個人面接）				
一般入学	第1次試験	理 科	『物理基礎・物理』, 『化学基礎・化学』, 『生物基礎・生物』の3科目のうち2科目を選択	200点 (各100点)	100分
		数 学	『数学Ⅰ・数学Ⅱ・数学Ⅲ・数学A・数学B（数列・ベクトル）』	150点	80分
		外国語	『コミュニケーション英語Ⅰ・コミュニケーション英語Ⅱ・コミュニケーション英語Ⅲ・英語表現Ⅰ・英語表現Ⅱ』	150点	80分
	第2次試験	小論文		5段階評価	60分
		面接（個人面接）		5段階評価	—
大学入試 センター試験 利用入学 (前期)	第1次試験 (大学入試 センター試験)	国 語	『国語』（近代以降の文章のみ利用）	100点	大学入試 センター試験 実施日程どおり
		数 学	『数学Ⅰ・数学A』, 『数学Ⅱ・数学B』	200点 (各100点)	
		理 科	『物理』, 『化学』, 『生物』の3科目のうち2科目を選択	200点 (各100点)	
		外国語	『英語（筆記・リスニング）』※250点を200点に換算	200点	
	第2次試験	面接（個人面接）		5段階評価	—
大学入試 センター試験 利用入学 (後期)	第1次試験 (大学入試 センター試験)	国 語	『国語』（近代以降の文章、古典〔古文・漢文〕）	200点	大学入試 センター試験 実施日程どおり
		数 学	『数学Ⅰ・数学A』・『数学Ⅱ・数学B』	200点 (各100点)	
		理 科	『物理』『化学』『生物』の3科目のうち1科目選択 ※但し2科目受験した場合は高得点の1科目を利用	100点	
		地歴公民	『全科目』のうち1科目選択 ※但し2科目受験した場合は高得点の1科目を利用	100点	
		外国語	『英語(筆記・リスニング)』※250点を200点に換算	200点	
	第2次試験	面接（個人面接）		5段階評価	—
愛知県地域特別枠入学B方式	試験内容は大学入試センター試験利用入学（前期）と同様				

2020年度看護学部看護学科学生募集概要

看護学部看護学科の入試日程等は次のとおりです。

◆入試日程						
区 分		募集人数	出願期間	試験日	試験会場	合格発表日
推薦入学	指定校制	約15名	10/21～10/31 [消印有効]	11/9	本 学	11/19
	公募制	約15名				
社会人等特別選抜		5名				
一般入学		50名	12/23～1/14 [消印有効]	1/26		2/5
大学入試 センター試験 利用入学	A方式	10名	12/23～1/17 [消印有効]	1/18・19 大学入試センター試験日	大学入試センター 試験受験会場	2/12
	B方式	5名				
◆入試科目・配点・時間						
区 分		出題教科	選考方法及び出題科目		配 点	時 間
推薦入学	指定校制	面接		—	—	
	公募制	国語	『国語総合（古文・漢文を除く。）・現代文B』		100点	45分
		数学	『数学Ⅰ・数学A』※1		100点	45分
		外国語	『コミュニケーション英語Ⅰ・コミュニケーション英語Ⅱ・英語表現Ⅰ』		100点	45分
		面接		—	—	
社会人等特別選抜		小論文		—	60分	
		面接		—	—	
一般入学		国語・数学	『国語総合（古文・漢文を除く。）・現代文B』 『数学Ⅰ・数学Ⅱ・数学A』から1科目を選択※1※2		100点	60分
		理 科	『物理基礎』, 『化学基礎』, 『生物基礎』から1科目を選択		70点	45分
		外国語	『コミュニケーション英語Ⅰ・コミュニケーション英語Ⅱ・英語表現Ⅰ』		100点	60分
大学入試 センター試験 利用入学	A方式	国語・数学	『国語（近代以降の文章）』, 『数学Ⅰ・数学A』, 『数学Ⅱ・数学B』から1科目を選択		100点	大学入試 センター試験 実施日程どおり
		理 科	①『物理基礎』, 『化学基礎』, 『生物基礎』, 『地学基礎』 ②『物理』, 『化学』, 『生物』, 『地学』 ①から2科目または②から1科目を選択		100点	
		外国語	『英語（筆記・リスニング）』※3		100点	
	B方式	国 語	『国語（近代以降の文章）』		100点	
		数 学	『数学Ⅰ・数学A』, 『数学Ⅱ・数学B』 から1科目を選択		100点	
		地理歴史・ 公民	『世界史B』, 『日本史B』, 『地理B』, 『現代社会』, 『倫理』, 『政治・経済』, 『倫理, 政治・経済』 から1科目を選択		100点	
		理 科	①『物理基礎』, 『化学基礎』, 『生物基礎』, 『地学基礎』 ②『物理』, 『化学』, 『生物』, 『地学』 ①から2科目または②から1科目を選択		100点	
	外国語	『英語（筆記・リスニング）』※3		100点		

※1 数学Aの出題範囲は「場合の数と確率」及び「図形の性質」とする。

※2 数学Ⅱの「微分・積分の考え」は出題範囲から除く。

※3 外国語の配点は250点を100点に換算する。

2020年度大学院医学研究科(博士課程)学生募集概要

大学院医学研究科（博士課程）の入試日程等は次のとおりです。

1 募集人員

- ・基礎医学系 13名
- ・臨床医学系 17名

2 入試日程

【第1次募集】

出願期間：令和元年8月13日（火）から
令和元年8月27日（火）まで（必着）
試験日：令和元年9月27日（金）
試験場：大学本館
合格発表：令和元年10月23日（水）

【第2次募集】

注：第1次募集により定員に満たない場合のみ実施
出願期間：令和元年12月10日（火）から
令和元年12月24日（火）まで（必着）
試験日：令和2年2月7日（金）
試験場：大学本館
合格発表：令和2年2月26日（水）

3 試験項目・時間

試験項目	時間
外国語（英語） 〔辞書使用可，電子辞書不可〕 ※外国人志願者の外国語試験は，英語一か国語のみによる試験又は英語及び日本語の二か国語による試験のいずれかを選択する。	10：00 ～ 12：00
面接試験 (志望する専攻分野に関連する専門試験を含む。)	13：00～

2020年度大学院看護学研究科(修士課程)学生募集概要

大学院看護学研究科（修士課程）の入試日程等は次のとおりです。

1 募集人員

15名

2 教育研究分野

教育研究分野	専攻領域	コース
母子看護学	母性看護学	修士論文
成人・老年看護学	慢性看護学	
精神・在宅・地域看護学	在宅看護学	
	地域看護学	
高度実践看護学	臨床実践看護学	高度実践看護師 (診療看護師)

3 入試日程

【第1次募集】

出願期間：令和元年8月9日（金）から
令和元年8月23日（金）まで（消印有効）
試験日：令和元年9月4日（水）
試験場：看護学部棟内講義室
合格発表：令和元年9月11日（水）

【第2次募集】

注：第1次募集により定員に満たない場合のみ実施
出願期間：令和2年1月7日（火）から
令和2年1月20日（月）まで（消印有効）
試験日：令和2年2月6日（木）
試験場：看護学部棟内講義室
合格発表：令和2年2月12日（水）

4 試験科目・時間

試験時間	試験科目等
9：00～10：30	小論文
10：45～12：15	専門科目(※)
13：15～	面接

※ 専門科目の出題について

- 1 修士論文コース：志願する専攻領域
- 2 高度実践看護師（診療看護師）コース：関連領域の病態生理学

2019年度オープンキャンパス開催



受付風景



脳の標本観察風景（加齢医科学研究所）

2019年度のオープンキャンパスが7月27日（土）・8月10日（土）に開催されました。参加人数は2回合わせて医学部は471組783名、看護学部は748組1,210名の計1,993名と多くの方に来場して頂きました。

当日は、大学本館たちばなホールでの「大学概要説明、入試説明」に始まり、レストランオレンジでの「学食体験」に加え、医学部は「キャンパスツアー」、「学生トークライブ（入学試験合格体験談、留学体験談、研究・学会発表体験談）」等を行い、看護学部は「在学生からのメッセージ」、「実習体験」等を行いました。

在学生の案内による「キャンパスツアー」においては、ドクターヘリを見学しながらのフライトドクター及びフライトナースによる説明が大変好評で、会場が賑わいました。

また、シミュレーションセンターにおける実習体験と国際交流センターの活動紹介（パネル展示）ではオープンキャンパスに来なければ知ることができない様々な体験ができました。

そして、教職員による「入学試験個別相談コーナー」では、入学試験の内容などに関する相談が多くあり、「在学生と話そう（学生との相談コーナー）」では、在学生から入学試験に臨む心構えや入学後の状況等を聞く良い機会として参加された方も数多く見られました。



ドクターヘリ説明



ドクターヘリ見学



在学生と話そう（在学生によるなんでも相談コーナー）

OPEN CAMPUS



未来カンファレンス

愛知医科大学
AICHI MEDICAL UNIVERSITY

未来カンファレンス

オープンキャンパスは未来について考える場です。一方的な情報提供ではなく、見て、聞いて、語って、大学生活を体感しながら、未来について語り合ってもらいたいと考え、その思いを「未来カンファレンス」と表現しました。

シンボルマークは、医療人のタマゴの殻が割れて生まれ、成長していくことを表しており、タマゴに入るヒビは心電図の波形であり、未来への胸の高鳴りを意味しています。

平成30年度愛知医科大学決算

令和元年5月27日（月）に開催された理事会及び評議員会において、平成30年度決算が承認されましたので、その概要をお知らせします。

■概要

平成30年度事業計画では、平成を締めくくる事業年度にあたり、あるべき大学・病院の理想形を示していくためには経営の充実が最優先であるとの共通認識の下、経営改善を行っていくことといたしました。国からは、医科系大学に対して健全な経営を求める一方で、働き方改革を提案され、更に医療安全や医療倫理の強化、地域包括ケアシステムの構築、初期臨床研修や専門医制度の改革、医学教育分野別評価（国際認証）で示される国際基準を踏まえた医学教育改革、更には特定機能病院に対するガバナンスの強化や医学英語論文数による研究能力評価等々に対応していくことが求められました。超高齢社会を迎え、日本の医学・医療体制が抜本的な改革を余儀なくされることは致し方ない現実と受け止め、むしろこれを変革のチャンスとして、職員を挙げて懸命に対応していくことといたしました。

いよいよ年度末を迎える早春に、全職員の不断の努力が結実する嬉しいニュースが相次ぎました。文部科学省の「私立大学等改革総合支援事業」タイプ1「教育の質的転換」に係る支援の獲得、本学と長久手市での「健康維持・増進を支える次世代先制地域医療：炎症評価コホート研究」事業も初めて私立大学研究ブランディング事業に採択されました。医師国家試験は、新卒合格率94.4%と全国平均を2年連続上回り、看護師国家試験も4年連続合格率100%の快挙となりました。念願だった厚生労働省の「地域がん診療連携拠点病院」に指定されることも決定いたしました。

経営改善について、平成30年9月25日の理事会、評議員会において、中・長期計画が承認され、本業部分にあたる教育活動資金収支差額は、5年後の令和5年度には、平成29年度決算から15億円弱の収支改善を計上しました。新病院建設以来の大型設備投資計画も控えており、キャッシュフローの健全性に努めることが求められました。実際に、平成30年度決算では38億円を計上し、計画どおりのスタートが切られることとなりました。

過去最悪の赤字を計上した平成21年度終盤に救世主のように登場し、9年にわたる激務のうちに新病院建設を中心とするキャンパス再整備を成し遂げ、本学の平成を締めくくられた三宅養三前理事長に深く敬意を表するとともに、全職員、同窓生を始め学生とご父兄、OB、職員家族、お取引先と本学とご縁のある皆様に改めて感謝する1年となりました。

事業活動収支計算書

平成30年4月1日から平成31年3月31日まで

(単位：百万円)

		科目	金額	前年差		
教育活動収入の部	事業活動収入	学生生徒等納付金	5,053	△48		
		手数料	238	31		
		寄付金	388	△58		
		経常費等補助金	1,962	399		
		付随事業収入	499	△33		
		医療収入	34,635	440		
		雑収入	624	△85		
		教育活動収入計	43,398	646		
		教育活動支出の部	事業活動支出	人件費	18,596	38
				教育研究経費	24,586	△80
管理経費	792			△181		
徴収不能額等	19			11		
教育活動支出計	43,993			△213		
教育活動収支差額			△595	859		
教育活動外収入の部	事業活動外収入	受取利息・配当金	1	△5		
		教育活動外収入計	1	△5		
		教育活動外支出の部	事業活動外支出	借入金等利息	303	△18
				教育活動外支出計	303	△18
教育活動外収支差額			△302	13		
経常収支差額			△896	872		
特別収入の部	事業活動収入	資産売却差額	0	△9		
		その他の特別収入	83	△121		
		特別収入計	83	△130		
	事業活動支出	事業活動外支出	資産処分差額	24	△0	
			その他の特別支出	12	△26	
			特別支出計	37	△26	
特別収支差額			47	△104		
基本金組入前当年度収支差額			△850	768		
基本金組入額合計			△2,924	588		
当年度収支差額			△3,774	1,356		
前年度繰越収支差額			△51,174	△3,665		
基本金取崩額			0	△1,464		
翌年度繰越収支差額			△54,947	△3,774		

(参考)

事業活動収入計	43,483	511
事業活動支出計	44,332	△257

(注) 科目毎に百万円未満を四捨五入表示しているため、合計は必ずしも一致しない。

資金収支計算書

平成30年4月1日から平成31年3月31日まで

(単位:百万円)

収入の部			支出の部		
科目	金額	前年差	科目	金額	前年差
学生生徒等納付金収入	5,053	△48	人件費支出	18,456	△90
手数料収入	238	31	教育研究経費支出	20,598	316
寄付金収入	429	△110	（うち医療経費支出）	(18,624)	(423)
補助金収入	1,980	342	管理経費支出	582	△235
（国庫補助金収入）	(1,616)	(341)	借入金等利息支出	303	△18
（地方公共団体補助金収入）	(363)	(△0)	借入金等返済支出	1,712	△20
（若手・女性研究者奨励金収入）	(0)	(0)	施設関係支出	50	△700
資産売却収入	0	△9	設備関係支出	700	△1,164
付随事業・収益事業収入	499	△33	資産運用支出	80	△30
医療収入	34,635	440	その他の支出	4,491	265
受取利息・配当金収入	1	△5			
雑収入	626	△85			
借入金等収入	80	△30			
前受金収入	910	△37			
その他の収入	7,855	349			
資金収入調整勘定	△7,279	51	資金支出調整勘定	△3,500	838
前年度繰越支払資金	3,717	△137	翌年度繰越支払資金	5,272	1,556
収入の部合計	48,744	718	支出の部合計	48,744	718

(注) 科目毎に百万円未満を四捨五入表示しているため、合計は必ずしも一致しない。

貸借対照表

平成31年3月31日現在

(単位:百万円)

資産の部			負債の部		
科目	金額	前年差	科目	金額	前年差
固定資産	49,879	△4,309	固定負債	26,749	△1,903
有形固定資産	43,210	△3,248	長期借入金	17,571	△1,432
土地	8,773	0	学校債	970	△280
建物	27,932	△1,866	長期未払金	1,802	△331
構築物	1,632	△169	退職給与引当金	6,406	140
教育研究用機器備品	3,761	△1,190	流動負債	6,796	△33
管理用機器備品	196	△19	短期借入金	1,432	0
図書	907	△9	1年以内償還予定学校債	350	80
車両	8	4	未払金	3,677	△143
特定資産	5,959	△1,008	前受金	948	1
学校債償還引当特定資産	1,320	△200	預り金	389	29
借入金返済引当特定資産	2,700	△700			
医療機器等整備調整資金引当特定資産	1,850	0	負債の部合計	33,545	△1,936
教育研究奨励引当特定資産	0	△100			
国際交流推進引当特定資産	48	△6			
教育研究活性化引当特定資産	41	△2			
その他の固定資産	710	△52			
借地権	20	0			
電話加入権	5	0			
施設利用権	160	△15			
ソフトウェア	86	△106			
有価証券	11	0			
長期貸付金	428	68			
保証金	0	△0			
預託金	0	0			
流動資産	12,218	1,523			
現金預金	5,272	1,556			
未収入金	6,300	△73			
貯蔵品	346	10			
短期貸付金	132	23			
立替金	2	△0			
前払金	165	8			
資産の部合計	62,097	△2,785			
			繰越収支差額	△54,947	△3,774
			翌年度繰越収支差額	△54,947	△3,774
			純資産の部合計	28,552	△850
			負債及び純資産の部合計	62,097	△2,785

(注) 科目毎に百万円未満を四捨五入表示しているため、合計は必ずしも一致しない。

■前年度との比較（主な増減）

(1) 事業活動収支計算書

収入…事業活動収入は435億円で、前年対比5億11百万円の増収となりました。経常費等補助金収入が399百万円増加したこと、医療収入は診療単価および患者数の増加などにより440百万円の増収となっています。

支出…事業活動支出は443億円で、前年対比2億57百万円の減少となりました。主な内訳としては、人件費が38百万円の増加、教育研究経費が80百万円の減少、管理経費が1億81百万円の減少です。

(2) 資金収支計算書

資金収入の部合計は、487億円で前年対比7億18百万円の増加となっていますが、調整勘定等を除く実質的な収入は約4億92百万円の増収、同様に実質的な資金支出の部合計は、19億10百万円の減少となりました。

(3) 貸借対照表

資産総額は前年比28億円（4.3%）減少の621億円となりました。また、純資産額は前年比8億円（2.9%）減少の286億円となりました。

■最後に

本学の収入の根幹である医療について、令和2年度改定の議論が緩やかなスタートを切っています。今回の改定がこれからの病院の方向性に大きな影響を与えそうなポイントが挙げられている可能性が高いと認識する必要

があります。平成31年4月25日（木）に行われた「第1回入院医療等の調査・評価分科会」の議論で「急性期から長期療養まで含めた、入院医療機能の適切な評価指標や測定方法等についての検討」を行うと挙げられています。このことが何を意味し、どういう方向性を示しているかを精査する必要があります。病院経営は政策・制度と密接に関連しているからこそ、その方向性を読み解くことが重要であり、予見を持って経営戦略を考えていかなければなりません。

ここでもう一つの重要なキーワードが連携です。厚生労働省医政局医療経営支援課の医療法人指導官は、「日本は今後、人口減少社会に突入し、患者のみならず、医療従事者の確保も困難な状況を迎える。現状のまま何もせず手をこまねいては、地域で共倒れの危機に瀕する医療機関も出てくるだろう。そうした危機感を持つ医療経営者に、従来の医療機関間の「競争」から「協調」へと大きく舵を切り、地域で効率的で質の高い医療の提供を可能にする体制を整えてもらいたい。」とのコメントを出しています。高齢化社会では、急性期に該当しない患者の激増が予想されます。チーム医療や入退院支援のニーズが増大し、「治す医療」から「治し支える医療」への転換が求められます。本学は、地域で「治し支える医療」のネットワークを構築し、医療サービスのイノベーションを実践していく覚悟です。

なお、詳細についてはホームページをご覧ください。
<http://www.aichi-med-u.ac.jp/su01/su0105/index.html>

役員・評議員の異動

【理事】

辞 任 加藤政隆（令和元年5月31日付）

就 任 宮良 肇（任期：令和元年6月1日～令和4年1月27日）

【評議員】

辞 任 今村 明，大輪芳裕，加藤政隆（令和元年5月31日付）

退 任 衣斐 達（平成31年3月31日付）

就 任 磯部和男，小出詠子，小出龍郎
（任期：令和元年6月1日～令和4年1月27日）

高木三保子元医療安全管理室副室長 春の叙勲の栄誉

本院元医療安全管理室副室長の高木三保子さんが、令和元年春の叙勲において、瑞宝単光章を授与され、令和元年5月28日（火）国立劇場大劇場において伝達式、皇居宮殿において拝謁が行われました。心からお祝い申し上げます。

高木さんは、昭和51年に愛知医科大学看護専門学校に入学され、昭和54年の卒業と同時に愛知医科大学附属病院に入職された後38年間、看護業務に加え、人材育成、医療安全対策にご尽力されました。平成29年3月に定年退職を迎えられた後も現在に至るまで、患者相談窓口のご担当として、看護経験を活かし、患者への支援に力を注がれています。

入職後に配属された救命救急センターICUでは、重篤で高リスクな患者への看護ケアに尽力されるだけでなく、患者家族の気持ちへ深く寄り添うことも重視され、医師からも患者からも信頼される看護師として活躍されました。また、開設したばかりで教育システムも整っていなかったICUにおいて、看護業務マニュアルを作成し、現在も使用されているICU看護マニュアルの基盤を構築されました。平成2年に看護婦長に昇任されると、新人教育において院内初の試みであるプリセプターシップを取り入れることで、多くの新人看護師の成長に大いに貢献されました。

医療安全管理室副室長となつてからは、本院の医療安全管理者として組織横断的に当院の安全管理を担われました。解決の難しい医療問題や医療事故に対しても、真摯な対応で最善策を導かれました。院外においては、全国に先駆け医療安全管理者養成研修会のプログラムを構築するなど、県内医療安全管理者のレベルを高めるための教育に熱を注がれました。

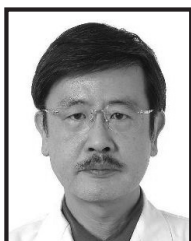
高木さんは、今回の受章に関して「この度、栄ある章を頂き、皇居豊明殿において天皇陛下に拝謁を賜ること



ができましたのは、身に余る光栄であり、ひとえに大学及び病院職員の皆さま、ご指導頂いた先輩の方々、ともに看護・医療安全に携わってくださった皆さまのおかげです。心より感謝申し上げますとともに、愛知医科大学及び愛知医科大学病院の益々の発展を祈念いたします。」と述べられました。

訃報

三原英嗣教授（特任）御逝去



令和元年7月23日（火）に臨床腫瘍センターの三原英嗣教授（特任）・外来化学療法部門長がご逝去されました。享年60歳でした。

三原先生は、昭和60年3月に本学を卒業され、本院第2内科へ入局されました。昭和61年に大学院博士課程へ進まれ、平成2年3月に医学博士の学位を取得後、4月から第2内科医員助手に着任されました。平成6年4月から1年間米国UCLAにResearch Fellowとして留学され、帰国後、内科学第2講座講師、平成19年12月から内科学講座（血液内科）准教授、平成21年1月から化学療法センター准教授に就任されました。そして、平成25年4月に教授（特任）に昇任されるとともに、臨床腫瘍センターの外来化学療法部門長に就任され、

外来化学療法室運営の責任者としてご活躍されました。

なお、造血器腫瘍、造血幹細胞移植をご専門とされ、骨髓移植推進財団から感謝状の贈呈があり、感染症科が立ち上がるまでの間、AIDS拠点病院の中心としても尽力されました。また、教育面における造血器腫瘍、化学療法関連、貧血、AIDSなど多岐にわたり学生・スタッフの指導に努められました。

口髭がトレードマークであり、厳しさの中にも優しさが溢れ、スタッフを引っ張る人格者でした。独特の語り口は、患者さんだけでなくスタッフをも惹きつけ、調整役として様々な場において貢献されてきました。

三原先生のこれまでの多大な貢献に感謝するとともに、ここに哀悼の意を表し、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

教育・研究・診療の施設・設備整備事業へのご協力をお願い



学校法人 愛知医科大学
理事長 祖父江 元

愛知医科大学は、開学以来48年目を迎えた現在、4,214人の医学部卒業生と1,693人の看護学部卒業生が、医学、医療の第一線で活躍しております。

本学では、医学の目覚ましい発展に即応した教育、研究、診療活動を展開するため、特色ある大学として21世紀における更なる発展を期して各種の事業の充実や施設・設備の整備及び拡充を図ってきました。

しかしながら、少子高齢化の進展、医療制度の改革、医学・医療技術の飛躍的な進歩等の環境変化が急速に進み、本学の教育・研究・診療に係る施設・設備について、ハード・ソフトにわたる最新鋭化が絶えず求められています。その財政基盤の一層の強化・安定化を図るため、募金へのご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

募金要項

- ① 募金目的 教育・研究・診療に係る施設・設備整備のため
- ② 募金口数 1口 1万円
- ③ 免税の取扱い 個人：税額控除制度・所得控除制度のいずれかを選択 など
法人：受配者指定寄付金制度 など

寄付の方法

<書面による方法>

本学HP「教育・研究・診療の施設・設備整備事業募金」から必要な文書をダウンロードして頂くか、又は「愛知医科大学 資金・出納室」から文書等を送付させていただきますので、それらによりお申し込み頂き、別途お振り込みなどをお願いいたします。

<インターネットによる方法>

本学HPから直接お申し込み頂き、次のようなお支払いができます。

◆ クレジットカード



◆ コンビニ



◆ ネットバンク（ペイジー）



お問い合わせ

愛知医科大学 資金・出納室

電話 **0561-63-1062**

E-mail:sikin@aichi-med-u.ac.jp

ホームページ

<https://www.aichi-med-u.ac.jp/su01/su0109/>

愛知医大 募金

検索



令和元年度医学部父兄後援会定期総会開催

新会長に宮良肇氏を選出



令和元年5月26日(日)午前10時から大学本館7階711特別講義室において、令和元年度愛知医科大学医学部父兄後援会・父兄互助会定期総会が開催されました。

平成30年度父兄後援会・父兄互助会の事業報告及び決算報告があり、令和元年度役員改選に移り、会長の宮良肇【写真】を始め総勢19名の新役員

が選出されました。

宮良新会長のあいさつの後、令和元年度事業計画及び予算案が原案どおり承認されました。

総会終了後は、祖父江 元理事長、石橋宏之教務部長、島田孝一法人本部長からそれぞれごあいさつがありました。

なお、昼食を挟んで、午後1時10分から4～6学年次生のご父兄を対象に国試懇談会が開催されました。

令和元年度看護学部父母会定期総会開催

会長に黒野俊介氏が再選



令和元年5月25日(土)午前10時より看護学部棟N301講義室において、令和元年度看護学部父母会定期総会が開催されました。

始めに、黒野俊介会長のあいさつの後、平成30年度の事業報告及び決算報告が原案どおり承認されました。

続いて役員の改選が行われ、会長には黒野俊介氏【写真】(4学年次生父母)が再選され、その他の役員として13名が選出されました。

その後、新役員によって議事進行がなされ、令和元年度事業計画及び予算について、原案のとおり承認されま

した。

議事終了後は、坂本真理子看護学部長、高橋佳子教務学生部長から父母会からの協力に対する感謝の言葉が述べられ、盛会のうちに定期総会は終了しました。

また、定期総会に引き続き、各学年に分かれ、父母と大学教員との学年別懇談会が開催されました。大学からは各学年主任及び副主任が出席し、活発な意見交換が行われました。

この学年別懇談会は、父母と大学の双方が定期的に情報や意見の交換を行うことで、大学や家庭での学生の現状を共有し、学生がより良い学生生活を送る環境づくりに役立てるために毎年実施されています。

国家試験日程のお知らせ

◆第114回医師国家試験

- ・試験日 令和2年2月8日(土)・9日(日)
- ・合格発表 令和2年3月16日(月)

◆第106回保健師国家試験

- ・試験日 令和2年2月14日(金)
- ・合格発表 令和2年3月19日(木)

◆第109回看護師国家試験

- ・試験日 令和2年2月16日(日)
- ・合格発表 令和2年3月19日(木)

学長招聘講演会の開催

ハワイ大学外科・教授 町 淳二先生

令和元年6月7日（金）午後5時30分から大学本館302講義室において、ハワイ大学外科の教授である町淳二先生を講師にお招きし、「Open Nation in Medical Education for Now and for Future 今・未来に向けての医学教育・開国」と題し、学長招聘講演会が開催されました。

町先生は、沖縄県立中部病院にて卒後研修を終えられた後、イリノイ大学リサーチフェロー、ペンシルバニア医科大学ピッツバーグマーシー病院において外科レジデントとして研鑽を積まれ、平成7年にハワイ大学外科の准教授、平成13年より同教授としてご活躍されています。

講演では、「医学教育を国際標準化する。」というご自身の目標（夢）を踏まえて、アメリカと日本の教育の違い、医師として求められる六つの能力などについて、ユーモアを交えながら分かり易くお話し頂きました。また、医師としてscience（技術・技能）は必要であるが、art（感性・人間性・コミュニケーションなど）を学ぶことが重要であると強調されました。最後に、学生に対し、「何事もゴールを定めて進むこと。目標（夢）を持って取り組むこと。」が大切であるとメッセージを送られました。講演会には、数多くの教職員や学生の参加があり、町先生の興味深いお話に、時には笑いに包まれながら、参加者は熱心に聞き入っていました。



ハワイのポーズで記念撮影

講演会終了後は、大学本館1階のレストランオレンジにおいて町先生を囲んで、学生を中心とした懇親会が和やかに開催されました。貴重なご講演ありがとうございました。

災害医療研究センター

令和元年度老人保健健康増進等事業に採択

災害医療研究センターが申請した「災害時に懸念される『避難生活に起因する生活不活発病』予防のための知見の集約と地域における普及啓発モデル事業」が、昨年度に引き続き、厚生労働省の令和元年度老人保健健康増進等事業に採択されました。

本事業は単年度事業であり、今年度は「生活不活発病」を始めとする震災関連死の低減に向けて、様々な活動を実施していきます。

6月24日（月）には、災害時を想定した地域ネットワーク検討委員会及び同委員会ワーキンググループが設置



され、地域の有識者及び関係機関を交えて活発な討論が行われました。【写真】

2019年度愛知医科大学公開講座

行ってみよう！聴いてみよう！医科大学の公開講座 ～健康で生きるために～

本学では、教育・研究を広く社会に開放し、地域社会の教育・文化向上に寄与することを目的として、公開講座を毎年度開催しております。2019年度の公開講座は、テーマを「健康で生きるために」と題し、9月7日（土）から毎週土曜日の計4回にわたって開催することとなりました。

- ・受講対象者 一般市民
- ・募集人数 400人
- ・受講料 無料
- ・会場 たちばなホール
- ・申込先 公開講座1係

開催日	講演時間	テーマ及び講師
9月7日（土）	10：00～11：00	認知症に関する予備知識 臨床実践看護学 教授 泉 雅之
	11：00～12：00	脳卒中を知る・防ぐ 脳卒中センター 教授 丹羽 淳一
9月14日（土）	10：00～11：00	脳の健康のために 病態治療学 教授 大須賀浩二
	11：00～12：00	生活習慣を見直し健康寿命を伸ばそう 地域看護学 教授 若杉 里実
9月21日（土）	10：00～10：10	愛知県てんかん治療医療連携協議会の紹介 精神神経科 教授 兼本 浩祐
	10：10～11：00	てんかんに合併する精神症状について 精神神経科 准教授 大島 智弘
	11：00～12：00	てんかんの診断と治療 精神神経科 教授 兼本 浩祐
9月28日（土）	10：00～11：00	穴からとる脳腫瘍 脳神経外科 准教授 渡邊 督
	11：00～12：00	脳卒中にならないために 脳神経外科 教授 宮地 茂

科学研究費助成事業執行方法説明会開催

令和元年5月16日（木）・6月21日（金）の2日間、大学本館204講義室において、科学研究費助成事業（科学研究費補助金、学術研究助成基金助成金）の執行方法等説明会が開催され、99名の参加がありました。

この学内説明会は、今年度に科研費の補助事業者となっている研究代表者及び研究分担者を対象に、採択された科研費の制度に関する理解の向上と適正な執行を確保し、不正防止等の徹底を図ることを目的に毎年開催しているものです。

説明会では、研究支援課の加藤広悟主事から、年間の

スケジュール、補助金制度と基金制度の相違点、ルール改正、学内執行ルール及び補助事業遂行に当たっての留意点等について説明がありました。また、最近の研究費不正使用に関する事例も紹介され、出席者に対して不正使用防止に向けた注意喚起がありました。

説明会終了後には、研究代表者及び研究分担者から、制度の内容や執行の方法等についての確認や相談があるなど、科研費の適正な執行と管理に向けて意義のある説明会になりました。

あいち小児保健医療総合センターと連携・協力の推進に関する協定を締結 ～愛知県における小児医療の更なる充実を目指して～

あいち小児保健医療総合センター（大府市）と本学との間で、連携・協力の推進に関する基本協定を締結しました。【写真】

本協定は、あいち小児保健医療総合センターの稀少疾患を含む豊富な症例に関する研究協力などを通じて、本学の高度な研究技術の提供や人材交流を行いながら、お互いの強みを生かした連携・協力体制を構築し、愛知県における小児医療を更に高度化させていくことを目的としています。

協定の締結に当たり、令和元年5月29日（水）愛知県公館において、本学から、佐藤啓二学長、藤原祥裕病院長・副学長、羽生田正行副学長が、愛知県から、大村秀章知事、木下平病院事業庁長、服部義あいち小児保健医療総合センター長が出席して締結式が行われました。

協定締結は、愛知県と愛知県内の医学部を有する本学



以外の3大学とも行われていますが、この協定を通じて、他大学とも協力しながら、本学が愛知県の小児医療の将来を担っていくことが期待されています。

A・IMAT調印式挙行

令和元年7月9日（火）愛知県警察本部において、加藤達也愛知県警察本部長を始めとした警察幹部の皆様、本院の藤原祥裕病院長、加納秀記救急診療部長、小寺努病院事務部長、市川光生病院管理課長が出席し、A・IMATの調印式が執り行われました。

A・IMATとは、「Aichi Incident Medical Assistance Team」の略で、人質立てこもり事件、刃物・銃器等の凶器を使用した立てこもり事件等、傷病者が発生するおそれのある事件が発生した際、本院に対してA・IMATの出動要請があり、予め現地指揮本部付近に待機し、傷病者が発生した場合に、速やかに応急の治療を実施することにより救命率の向上、後遺症の軽減等を図ることを目的とする医療派遣チームのことです。

A・IMATの体制は、基本的には、医師1名、看護師1名、調整員（救急救命士、病院事務職員等）1名の計3名となります。全国でのIMAT締結状況としては、警視庁、千葉県警察、神奈川県警察がすでに運用しており、本院は全国で4番目となります。

記者発表の中で、藤原病院長、加納部長から、現場での医療の提供は難しいことがあるが、病院としての責務の一つであり、一人でも多くの方を救いたいという意気込みが語られました。



藤原病院長と加藤本部長



調印式の様子

令和元年度医学部解剖慰霊祭挙行

令和元年5月13日（月）覚王山日泰寺において、令和元年度の医学部解剖慰霊祭が、本学からは医学部長及び解剖学講座並びに病理学講座を始めとする関係教職員約30名、医学部の2学生次生の110名が参列する中、233名のご遺族をお迎えして厳かに執り行われました。

今年度の慰霊祭では、平成30年4月から系統解剖と病理解剖にご遺体を供せられた54柱の御霊を新たに合祀し、総数5,096柱の御霊に対し、法要が営まれました。

午後2時、導師の入堂により祭儀が始まり、若槻明彦医学部長と北村直哉不老会理事長の慰霊の辞、続いて、学生代表として医学部3学年次生の阿藤里帆さんが「解剖学実習を通して、ご献体から得られたことは非常に多くありました。日頃の座学で学んだ知識を、より深く理解することができたと実感しております。この機会を決して無駄にせず、有意義なものにするために、毎回実習の前後には予習、復習をするとともに、同じ班の仲間との情報共有を欠かさず行いました。実習は毎回黙祷から始まり、常に感謝の気持ちをもって、真剣に取り組ませて頂きました。解剖学実習を通して、医学生としての自覚がより強くなり、大きく成長できたと実感しています。本当にありがとうございます。私は、解剖学実習という貴重な経験を、今後も決して忘れることはないでしょう。これから先、たくさん勉強し、日々進歩していく医学の知識と技術を十分に身につけていくとともに、思いやりがある医師になれるように精進します。そして、より良い未来に貢献し、ご献体頂いた方々の尊いご意志に



焼香する学生たち

少しでも恩返ししたいと思います。故人のご遺志の下、ご献体にご理解を賜りましたご遺族の方々、不老会の皆さま方に対し、深く感謝を申し上げるとともに、改めてご献体くださった御霊のご冥福をお祈り申し上げ、お礼の言葉とさせていただきます。」と礼辞を述べ、御霊に深い感謝と尊崇の念を捧げました。

この後、僧侶の読経が響きわたる中、若槻医学部長、解剖学講座を代表して内藤宗和教授、病理学講座を代表して笠井謙次教授がそれぞれ焼香し、続いて学生代表として医学部3学年次生梶浦尚尚さんが、その後、参列者一人ひとりが焼香して献体者のご冥福を祈りました。

午後3時、若槻医学部長の参列者に対する謝辞をもってつつがなく慰霊祭が終了し、参列者は、学生が見送る中を帰路につきました。

愛知医科大学不老会会員の集い開催

令和元年6月8日（土）大学本館たちばなホールにおいて、令和元年度愛知医科大学不老会会員の集いが開催されました。【写真】

当日は、愛知医科大学に献体の登録をされている不老会の会員及び役員並びに各地区代表の方々89名が参列し、本学からは若槻明彦医学部長、解剖学講座の内藤宗和教授及び中野隆教授を始め、医学部2学生次生110名が参加しました。

式典は、若槻医学部長、藤内美也子愛知医科大学部会・部会長及び北村直哉不老会理事長からのあいさつがあり、続いて、医学部3学年次生の清水遼太郎さんから「実習に参加するまでは、解剖に関する知識は教科書のイラスト等、紙面上の知識でしかなく、我々人体に共通して存在する構造のはずが、なかなか実感を伴って理解することが困難でした。ところが、実習に参加しご遺体に実際に触れることで、表面の構造から深部の構造まで次第に明らかになっていきました。また、個々の構造の違いが、それぞれご本人の生き様を表しているようにも感じ、ご遺体を通じて、生命の尊厳を感じることができました。単に学問としての解剖学を学ぶのではなく、これから医師になる上で、命の尊さをも感じられたことは大変貴重な経験となりました。ご献体して下さった方々やその



ご家族の方々にとって、献体をしていただく決断は、大変大きな葛藤と勇気が伴ったことと思います。短い実習期間ではありましたが、そんな方々の熱い思いをこの先ずっと胸に宿し、自己の研鑽を重ね、将来の医学の発展に貢献していく所存でございます。」と感謝を込めた学生体験発表がありました。

会員の集い終了後には、血管外科の三岡裕貴助教から「血管の病気—ご遺体から学び臨床に繋ぐ—」と題し、講演が行われました。

その後、大学本館1階レストラン「オレンジ」において、参加者と医学部学生及び教職員との昼食・懇談会が和やかに行われ、献体登記者との懇談は、学生にとって貴重な時間になりました。

医学部1学年次生プロフェッショナリズム1b Interprofessional Education (IPE) 多職種連携教育実施

本学では、昨年度から医学部1～4学年次生の授業科目プロフェッショナリズムの一環として、他の専攻科の学生と学ぶInterprofessional Education (IPE) を実施しています。

今年度は令和元年5月9日（木）体育館において、医学部及び看護学部の1学年次生に加え、名城大学薬学部の1学年次生も参加して実施されました。

目標は「チーム医療の重要性を考えることができる」です。まず、輪っかづくりを行いました。どうすればたくさん輪っかをつなげられるかを話し合いながら、少しずつ難しくなる条件の中、競います。初めて顔を合わせたメンバーがあっという間に力を合わせるチームになりました。その後、チーム医療、チームワークの基本の講義の後、「あなたの目指す医療チームとは」をテーマに、KJ法を用いたグループワークを行い、いくつか発表し



てもらいました。今年は、特にタコを使って表現していたグループに、学生、教員から多くの驚きと称賛がありました。今後も低学年から継続してIPEを実施し、チーム医療、多職種連携について考える機会を持ってもらいたいと考えています。

医学部2学年次外来案内実習実施

令和元年7月23日（火）～25日（木）の3日間、医学部2学年次の授業科目「外来案内実習」（患者さんエスコート実習）が行われました。【写真】

この実習は、医学生として患者さんの診察受付から会計、薬の受け渡しまで同行し、患者さんがどの様に診療を受けているか、また大学病院における医療の実態を知ること、医療がどうあるべきか、医療従事者とはどの様にあるべきかを自分自身に問いかけることを目的とし、2学年次生110名が参加しました。更に、この実習では、患者さんとのコミュニケーションの大切さを学び、将来、医師となる上での自覚を深め、日々の学習に活かすことも期待されています。

実習初日、大学病院オアシスホールに集合した学生は、科目責任者の鈴木孝太教授（衛生学講座）始め関係教員の指導の下、まずは来院患者さんに付き添いの承諾を得ることから実習を開始しました。

学生の多くは、緊張した面持ちで声をかけていましたが、診察などを待つ時間に患者さんとコミュニケーションを図り、患者さんから「家族の車イスを押してもらった。」「医学生と交流を持てたことが貴重な経験となった。」などの感謝のお言葉やお褒めの言葉を頂きました。また、学生も患者さん一人ひとりと向き合うことの大切さを実感したようです。

今後も、患者さんの声を含め、関係部署の方のご意見をもとに改善しつつ、この実習を継続し、患者さんの立場に立てる良き医師の育成に努めていきます。



患者さんとのコミュニケーションを図る学生たち

「ふれあい朝食会」の開催

ふれあい朝食会は、医学部1学年次生を対象に平成27年度から開催されており、学生の規則的な生活と朝型のリズム取得による脳の活性化を図ると共に、学生と教員と一緒に朝食を取ることで親睦を図ることを目的に年3回開催されています。

令和元年度の朝食会が5月27日（月）・7月12日（金）午前8時から大学本館1階のレストランオレンジにおいて開催されました。朝食会は若槻明彦医学部長のあいさつに始まり、引き続き今回が初めての出席となった祖父江元理事長からあいさつがあり、会は和やかに進みました。

この朝食会が、学生達にとって朝型の規則正しい生活リズムを取得するための一助となることを切に願います。

なお、3回目の朝食会は12月にも開催される予定です。



医学部成績優秀者表彰

本学医学部では、平成30年度の成績が各学年上位の者で、出席状況及び勉強態度等が他の模範となる学生に対して適用された成績優秀者に対し、本人の学習意欲の高揚を更に図るため、顕彰制度を設け表彰しています。

令和元年5月17日（金）午後5時40分から大学本館7階711特別講義室において、医学部2～6学年次生の各学年5名の合計25名に対して、佐藤啓二学長から表彰状及び記念品が授与され、一人ひとりに称揚と更なる期待の言葉をかけられました。



成績優秀者の学生と記念撮影

医学部6学年次生の高橋周治君

2019日本学生陸上競技個人選手権大会(男子100m) 3位入賞

医学部6学年次生の高橋周治君が、令和元年6月7日（金）から9日（日）Shonan BMW スタジアム平塚（神奈川県）で開催された2019日本学生陸上競技個人選手権大会（男子100m）において、3位となりました。（タイム10秒46）

高橋君はこれまでも、日本陸上競技選手権大会（男子100m）に3大会連続で出場しているトップランナーで、2016年・2017年は2大会連続で7位入賞、2018年は準決勝出場を果たしています。

春からの臨床実習と並行して練習を積み重ね、医学部最終学年で臨んだ大会でも素晴らしい結果を残しました。本当におめでとうございます。



熱中症予防の講演会開催

令和元年6月19日（水）午後5時40分から大学本館たちばなホールにおいて、両学部のクラブ加入者全員を対象に、医学教育センターの青木瑠里講師による熱中症予防講演会が開催されました。【写真】

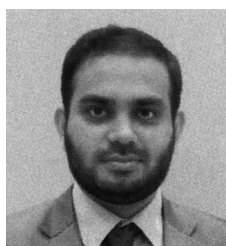
この講演会は、8月上旬から開催される西日本医科学学生総合体育大会（西医体）に向けて、これから練習量が多くなり、練習の時間帯も夜から日中に移行する時期でもあることから、熱中症の予防について再認識してもらうことを目的に毎年開催されています。

青木講師からは、疫学的な視点を中心に講演が進められ、梅雨明けこそ熱中症のリスクが高いため注意すること、熱中症を防ぐためには暑さに体が適応した状態「暑熱順化」することが大切であること、本格的な暑さになる前に軽い運動を行って、自力で汗をかくトレーニングを行うよう説明がありました。特に、試験週間を終え心身ともに疲労を抱えた状態は危険性が増すことを十分理



解し、練習や試合に臨むよう注意喚起もありました。参加した約450名の学生が、この講演会で得た知識を活かして、安全かつ効率的な練習を行い、西医体で活躍されることを期待します。

大学院医学研究科学生表彰（優秀論文賞）



大学院医学研究科では、大学院学生の研究活動の活性化を図るため、学生が顕著な業績を挙げた場合等の表彰制度を設けています。

この度、生化学講座の細川好孝教授から、平成30年度に修了したMd. Wahiduzzaman氏（基礎医学系生化学専攻）の学位論文につ

いて推薦があり、医学研究科委員会で選考した結果、「優秀論文賞」として表彰されることとなりました。

Md. Wahiduzzaman氏は、バングラデシュのチッタゴン大学を優秀な成績で修了し、2015年に本学大学院医学系研究科博士課程に入学しました。入学後、すぐに多彩な分子生物学の技術を身に付け、創造的な能力を発揮しました。また、非常に責任感と自制心が強く、日本語習得能力も高く、積極的にコミュニケーションを図っており、周囲からも慕われる人柄です。そのような努力が結んだ結果、国際的に評価の高い雑誌（Cancer Letters）に掲載されました。

今後も、表彰される学生が続くことを期待します。

一学修・進路支援活動—メイク対策講習会 「看護職として好印象を与えるメイク講座」

令和元年5月21日（火）午後1時から看護学部棟N301講義室において、看護学部2学年次生を対象に、基礎看護学実習を前にふさわしい身だしなみを学ぶ活動の一環として「看護職として好印象を与えるメイク講座」が開催されました。

POLA株式会社のフェイシャルエステティシヤンの指導の下、看護職にふさわしい身だしなみについての講義とスキンケア・メイクアップについての演習が行われました。

基本であるスキンケア（洗顔・保湿）と清潔感のあるベースメイクの方法、アイブロウで安心顔の作り方、優しい目元の作り方などメイクの実践を行いました。自分に合ったファンデーションの選び方やリップやチーク

の色の選び方など、プロの講師から直接指導を受け、看護学生として看護の対象となる人々に安心感を与えるメイクについて考える機会になりました。

男子学生は、スキンケアの必要性についての講義とスキンケアについての演習を行い、看護学生として周りに好印象を与える清潔感の大切さを実感していました。

受講した学生からは「基本のスキンケアを大切にしたい。」「メイクの使い分けをしていきたい。」「メイクの幅が広がった。」「周りからみられる自分を意識できる良い機会になった。」などの感想があり、また、終了後、講師の方々にスキンケアやメイクについて質問や相談をする学生の姿も見られ、とても充実した講習会となりました。

令和元年度看護学部キャンドルセレモニー挙行

令和元年6月22日（土）午前10時から、大学本館たちばなホールにおいて、「令和元年度看護学部キャンドルセレモニー」が挙行されました。【写真】昨年度から、カリキュラムが変更され、実習開始時期が10月から7月に早まったことに伴い、開催時期を6月に変更して実施しています。

始めに、佐藤啓二学長から「今日は特別な日であり、弱者の側に立つ人間には、温かい心と科学的・合理的判断が求められることとなります。是非、看護学をしっかりと学び、将来、患者さんの心の中に希望の火を灯す存在となり、慈しみの心を育て立派な看護師に成長して頂きたいと願っています。」との式辞が述べられました。

続いて、坂本真理子看護学部長から「今後は、更に本格的な看護学を学びながら、実際の患者さんとの関わりを持って看護を学んでいく次の段階に入ります。皆さんの学修が多くの方々との協力を得て成り立っていることに感謝し、相手との関係性の中で看護を実践していくこと、

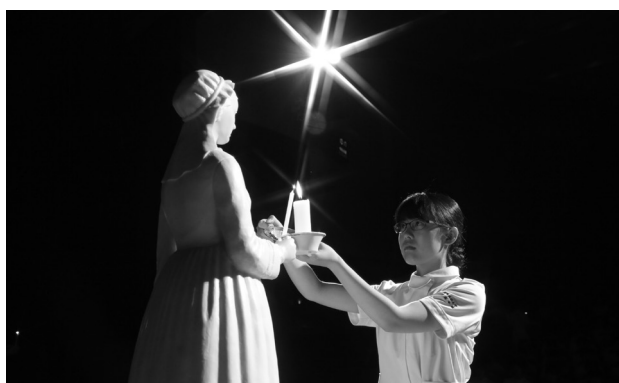


自らの健康をコントロールし、改善できるようにするヘルスプロモーションを念頭に置き、常に万全の体調で患者さんに向かい、これからの看護学を学んでいってください。」とのメッセージがありました。

その後、学生一人ひとりが看護学部長から手渡された燭台に、ナイチンゲール像の灯火を受け継ぎ、101名全員で『誓いの言葉』を述べ、愛知医科大学看護の歌『愛の使命』を合唱して厳粛な雰囲気の中、キャンドルセレモニーを終了しました。

このキャンドルセレモニーは、ナイチンゲールの精神を受け継ぎ、看護職者となるための決意を新たにする場として2学年次生の実行委員が中心となって企画し、学生たちが一致団結して運営しているものです。

これから本格的に始まる看護学の修得に一層力を注ぎ、高度な知識・技術を兼ね備えた心豊かな看護職者へと育てていくことを心から願っています。



看護学部体験講義開催

令和元年7月29日（月）に看護学部体験講義が開催され、愛知県立天白高等学校から高校生17名（1～3年生）及び教員1名が来学されました。

体験講義では、感染看護学の長崎由紀子准教授による「専門職としての看護の魅力」をテーマとした模擬講義が行われました。「アルコール消毒液を用いた衛生的手洗いの手順」では、グループワークを行い、高校生同士学年を超えた交流に楽しくも真剣に取り組んでいました。その後、ドクターヘリの見学を行い、高校生の皆さんは間近で見るドクターヘリの迫力に圧倒されているようでした。

参加した高校生からは、「ドクターヘリに乗ることができて貴重な体験だった。」「先輩の話の中で、具体的なことが開けて大学についてもよりよく分かった。」「どんなことを大学でするのが少しわかったので、勉強へ



模擬講義（グループワーク）

のモチベーションが上がった。」などの感想が寄せられ、参加者の皆さんにとっては、貴重な体験を通してとても有意義で充実した一日となったことと思われます。

臨床看護セミナー「看護のためのフィジカルアセスメント研修」開催

令和元年7月6日（土）・7日（日）の2日間、看護学部棟において、2019年度臨床看護セミナーが開催されました。【写真】本セミナーは、臨床看護師のニーズが高く、今年度も県内外から2日間で延べ109名の参加がありました。今回は『今、患者の身体の中で起こっていること』を正しくアセスメントする力を身につけ、日々の看護実践に活かすことを目的に講義から演習という企画で実施しました。

1日目は、「呼吸・循環の基礎知識や患者の急変の前駆症状を正しくアセスメントすること」について、本院麻酔科の奥村将年助教と集中ケア認定看護師に講義をして頂きました。

2日目は「実践に役立つ五感を駆使したフィジカルイグザミネーションスキル」について、集中ケア認定看護師2名、新生児集中ケア認定看護師1名で講義と演習を行って頂きました。演習では、聴診器でどこを聴診すればよいのか、肺区域を確認しながらマーキングしたり、ベッド上での補助呼吸や、SBARでの報告などを行い、参加者同士での体験学習も和やかな雰囲気の中で行われました。

参加者からは、実践に即した内容に「実践に繋がれると感じることが多かった。」「違和感を持つだけであった患者の異変が意味づけられた。」「いろいろな人のアセスメントが共有できて学びになった。」「臨床で活用したい。」などの意見があり、参加者にとって満足感の高いセミナーとなりました。



演習風景

今後も臨床看護セミナーを通して、看護実践の向上に貢献していきます。

看護学研究科公開講義開催

令和元年6月8日（土）午後2時から大学本館3階302講義室において、大学院看護学研究科公開講義が開催されました。

本講義は、看護学研究科高度実践看護師（診療看護師）コースで開講している講義の一部を学内外の方々へ公開することを目的に実施されました。

独立行政法人国立病院機構長崎医療センターの脳神経外科診療看護師の本田和也氏をお招きし、「へき地・離島における診療看護師の活動」というテーマで、へき地・離島にて求められる診療看護師の役割について臨床経験を踏まえて講演を頂きました。

講師を務めた本田先生は、1年間、長崎離島に移住し、へき地・離島での診療看護師活動を通じて、患者訪問や初診を自身が担うことで患者の再診数が低下するなど、診療看護師の介入効果について紹介されました。離島での活動後、現職へ復帰され、後輩の育成や診療活動を行う中で、診療看護師には医療の質向上のための実践が重



要であり、法律の範囲内で患者へのアウトカムを示し、診療看護師の役割を広く認知させることが重要であると話されました。

診療看護師として高度医療の現場からへき地・離島医療まで幅広い臨床経験を積まれた先生の講義に、学生だけでなく受講者全てが診療看護師として求められる役割と責務について理解した貴重な講義となりました。

看護学研究科特別講義開催

令和元年5月18日（土）・6月15日（土）の2日間にわたり看護学研究科特別講義が開催されました。

1回目は、日本看護連盟会長・日本NP教育大学院協議会会長の草間朋子先生をお招きし、「日本における看護職の役割拡大を巡る10年」というテーマで講演を頂きました。

講義では、「看護師の自律」には、看護師が思いを声に出していかななくてはいけないという言葉から始まり、臨床では、療養上の世話である食事やシャワーも医師の指示を受けて行っている状況を鑑み、初期診療を自律的に提供できる診療看護師を育成するに至ったエピソードが紹介されました。一般社団法人日本NP教育大学院協議会・日本NP学会の設立、NPに対する社会的認知・評価の獲得にも力を注がれ、特定行為全21区分の修得を卒業要件とし、卒業と同時に特定行為研修修了者としての資格が得られる仕組みに進化させています。

「看護師の自律」に向けたこれらの努力は、まさに声を出し続けられている10年間といえ、草間先生だけでなく、受講者の一人ひとりが、看護師の自律に向けて思いを声に出していかななくてはいけないと感じた貴重な講演でした。

2回目は、帝京平成大学ヒューマンケア学部看護学科教授の北川明先生をお招きし、「学修成果を把握するルーブリック評価の活用」というテーマで講演を頂きました。

教育の質を保証する要である学修成果の可視化は、教育改革の要とも言われています。公平・客観的であり、学生と教員が成果を共有できるルーブリック評価は、学修活動の自己評価・相互評価などに有効であるとされています。

講義では、ルーブリック評価の基本的な考え方から作成方法、多様な展開方法、実例について講演がありました。受講者からは「学生の評価について、いつも悩みながら評価しているので、客観的でとても良い評価方法を知り、これから取り入れていきたい。」などの感想があり、即教育実践に活かすことのできる講義でした。ルーブリック評価を活用することで、教員による評価のばらつきを抑え、学生の自己評価力を養い、時に第三者とも共有可能な評価方法として検討し、取り組むことは意義が高いと感じる講演でした。



草間先生による講義



北川先生による講義

南イリノイ大学医学部短期留学体験記

本学では、南イリノイ大学（SIU）医学部と学生交換を含む包括的な相互交流を行っており、この交換プログラムの一環として、臨床実習選択（Elective）コースと2学年次カリキュラム受講（PBL）コースの二つのコースへ医学部学生を派遣しています。

平成30年度のプログラムとして、Electiveコースへ平成31年2月2日（土）から3月31日（日）まで3名、また、PBLコースへ3月9日（土）から3月31日（日）まで7名の学生が留学しました。この留学を終えた学生から寄せられた体験記をご紹介します。

「SIU臨床実習選択コース」への派遣者

この度、Burn Surgery（Plastic Surgery）2週間、Endocrinology 2週間、Emergency Medicine 4週間を選択しSIU（South Illinois University）の教育病院であるMMC（Memorial Medical Center）とSt. John's Hospitalにて米国の臨床実習を経験する貴重な機会を頂きました。振り返ってみて全ての科に言えたのは「主体性」と「積極性」の大切さでした。縫合などの外科手技や患者への問診と身体診察、アテンドへの患者情報と治療方針のプレゼン、ジャーナルクラブでの論文プレゼンとディスカッション等では常に指導医からフィードバックをもらい、次回改善できるよう試行錯誤したことで毎回成長を実感でき、非常に教育的な環境で学ぶことができました。

そして、多くの素晴らしい医師や自分と同世代の医学生と出会い刺激的な毎日を経験することができました。彼らとの「ご縁」を大切に良医になるべくこれからも日々精進して参ります。

今回の留学では、Electiveコースで病院実習をさせて頂きました。実習では、何を行うにもup to youと言われ、普段、日本では空気を読んで質問するタイミングを伺ってしまうことや、やりたいことがあってもなかなか言い出せないことが多いですが、アメリカでは180度違う世界でした。今でもまだ、ためらってしまうこともありますが、2か月間のアメリカ生活で積極的に主張できるようになりました。また、辛いことや大変なことの連続で、時に挫けそうになることもありましたが、その苦しさを自分の力で乗り越えることができました。

アメリカで出会った友人を始め多くの素敵な方々が、私の味方になり、全力で支えてくれたことにとっても感謝しています。

今回の留学を通じて私は、医療保険制度、文化的価値観や背景、病気の発症率など、日本とは異なる点が多数ある環境で学ぶ機会を得ることが出来ました。これらの経験は、私が今後医師となり、海外からの患者さんを受け持つ将来が来た際に、糧となるでしょう。

近年、海外の方が日本を訪れる機会が増えており、年間延べ3,000万人以上の方が日本に来られているとのこと。このような社会変化を踏まえると、語学や海外の文化に通じた医療者の存在が、より一層必要となるのではないかと考えています。国際化した医療現場で周囲に頼られる様な医師となるべく、これからも鋭意努力していきます。

医学部6学年次生 牛久潤彦



牛久さん（中央）

医学部6学年次生 小出里沙



医学部6学年次生 室谷太郎



室谷さん（中央）

「SIU2学年次カリキュラム受講コース」への派遣者

医学部5学年次生 桂山 雄一

南イリノイ大学 (SIU) での研修は、日本では経験できないことばかりで、とても新鮮でした。特に、SIUの学生と行うPBLでは、今思えばもっと発言できたであろう場面もあり、自身の英語力の無さこそ実感しましたが、彼らと同じ土俵で議論できたことは、自分の自信に繋がったと思います。また、PBLでの議論を踏まえて見つけていくLearning Issuesは、それを解決すること自体が復習になり、議論での間違いも糧にして理解を深められるという勉強スタイルで、座学の講義が基本である日本には無いもので、アメリカとの大きな違いを感じました。History takingやHead to toe examなどの実習や、様々な場面を想定できるシミュレーションセンターもあり、より実践的に学ぶことが出来る環境も魅力的でした。

アメリカで過ごした3週間は、一瞬に感じられるほど充実したもので、自分の視野を広げられる良い機会になったと思います。今後もこの経験を忘れずに、より一層勉学に励んでいきたいです。

医学部5学年次生 加藤 駿一郎

SIUでの3週間は長いようであっという間でした。平日は授業と、Learning Issuesと呼ばれる自習課題をこなしながら、土日はシカゴなどを観光しました。彼らの積極性と自主性には本当に驚かされました。少数数での討論では1秒も止まることがないと思うくらいに常に誰かが意見を述べており、大講義室での授業でさえ質問が飛び交います。自分達で学習課題を見つけ、毎日で自習をしています。先生もついていますが、たまにアドバイスをくれる程度です。日本での自分の勉強方法を反省するとともに、大変な刺激になりました。

とても充実した時間を送ることができる留学プログラムだと思います。興味がある方は是非参加してみてください。

医学部5学年次生 河村 京佳

今回、南イリノイ大学のPBLコースに初めて参加させて頂きました。このような貴重な機会を頂き、日本とは異なる文化に触れることで視野を広げられたこと、本当に感謝しています。アメリカの学生の議論のスピードの速さ、積極性、知識の繋がりとともに初めは圧倒されましたが、ついていくために必死に勉強したことで病態に関してより理解を深めることができ、また、自分が何が足りないのかということを変更して学ぶことができました。

留学で得たことを今後の生活でどれだけ活かせるかが大切だと思うので、これからの実習、勉強に取り入れていこうと思います。

医学部5学年次生 鬼頭 浩未

今回私は南イリノイ大学に留学させて頂きました。志願理由としては、自分の医学学習の刺激にできたらと思ったからです。

実際に行ってみると、授業スタイルが全く異なりました。日本は講義主体のため受動的であるし、正直勉強のモチベーションは高くありません。しかし、アメリカはPBL主体で、学生で授業を進めていくため、自主的であるし知識を互いに共有でき競争心も沸き、高めあった勉強をすることができます。私は今まで、医学知識をただ暗記しており、病態生理の理解も薄かったため、過去の浅はかな勉強方法を深く反省しました。今回の留学を通し、勉強への意欲、勉強方法も変えるきっかけとなり、非常に有意義なものとなりました。

医学部5学年次生 鈴木 健太

私はPBLコースに参加し、3週間勉強しました。アメリカの学生は議論のスピードがとても速く、ついていくのが大変でした。また、彼らは疾患の根底にある病態生理学や生化学の知識がしっかりと頭に入っており、それらの知識を応用して疾患を考察することができていました。このような勉強に対する姿勢や議論に参加することの積極性に日本の医学生との違いを見て驚かされました。自分も驚くだけでなく良いと思った部分は見習って、これからの臨床実習に臨もうと考えました。

帰国した後、本学に来た留学生と一緒に臨床実習も回り、患者の状態などについて話すこともできて医学英語の力もついたと感じました。行く前は不安もありましたが行って正解でした。

医学部5学年次生 高田 莉子

今回のSIUへの留学に参加し、向こうの医学生と交流して一番刺激的だったのがPBLでの知識量でした。SIUの学生は、疾患の病態生理や生化学、発生学、また問診の技術や治療方針、患者さんのその後のケアプランを立てることなど、臨床的で根拠に基づく知識を持っていました。私達も日本で4年間医学を勉強してきたという自信がありながらも、SIUの学生から学ぶことはたくさんありました。英語でのコミュニケーションも、間違った英語でも恥ずかしくなくとにかく勇気をもって声に出すことが何より大切なことだと実感しました。これから、英語も医学も向上心をもって勉強していこうと思います。

医学部5学年次生 平山 愛子

現地学生との学習の初日は、速すぎる英語にまず驚き、医学の習熟度の深さにも驚き、目を回すばかりでした。しかし、自身の医学への理解が深まれば深まるほど、彼らの話している内容も徐々に理解しやすくなったことから、“医学”という共通の言語を見出せたように感じました。英語、医学の力不足さにもがき苦しむ現実は、なりたいた自分像への第一歩なのだと思えると、それもまた嬉しく、学習へのモチベーションへと繋がりました。アメリカでは、学んだことをすぐに臨床現場に生かせるよう、症例を通して疾患を学ぶことで、実践的な学習を行っていました。社会・文化的背景により、医療の在り方も異なるため、学習方法も多様に変化する様子が伺えました。



日本人セッショングループでの集合写真

コンケン大学医学部短期留学体験記

本学では、コンケン大学（KKU）医学部と平成23年度に学術国際交流協定を締結して以降、教育と研究における国際交流の促進を目指し、積極的に交流を行っており、プログラムの一環として、臨床実習選択（elective）コースへ本学医学部学生を派遣しています。

平成31年度のプログラムとして、平成31年3月31日（日）から4月28日（日）まで8名の学生が留学しました。この留学を終えた学生から寄せられた体験記をご紹介します。

「KKU臨床実習選択コース」への派遣者

医学部6学年次生 安部 崇子

タイのコンケン大学に1か月留学しました。一番の収穫はどんな状況であれ意外と楽しく生活できるということが分かったことです。食事や寮での生活、英語での医学の会話など最初は驚きと苦労の連続でしたが、日本人メンバーやタイの先生方や学生に支えられ、その生活を楽しむことができました。宗教観や人間関係に対する考え方など実際に現地の人と深く話さなければ分からないようなことも知ることができ、語学や医学だけでなくとても多くのことを学ぶことができました。

医学部6学年次生 石井 宏和

タイのコンケン大学の整形外科に4週間留学させて頂きました。タイの先生や医学生とともに外来や処置室、オペ室で様々なことを学ばせて頂きました。4週間タイで生活し感じたことは、タイの医学生や先生は英語がとても上手かったということです。タイの医学生は、毎日医学の勉強はもちろんしているのですが、英語にもとても親しんでおり、発音がタイ訛りにはなっていましたが大変流暢に話せるため、英語を話せるよう学ぶことの重要性を知りました。また習慣や考え方の違いなど様々なことを学ぶことができたため大変有意義な実習ができました。

医学部6学年次生 石黒 裕季子

私は4週間、タイのコンケン大学小児科で臨床実習をさせて頂きました。

小児科では日本では遭遇しないような疾患も多く、毎日熱心にご指導を頂きました。タイでは医学部6年生が当直の業務や救急対応を行う実習を通して、積極的な学習と手技の習得をしていました。カンファレンスや回診・日常業務でも医師との議論を活発に行っており、その環境でともに実習をすることで学ぶことが多かったです。

コンケン大学での生活は非常に濃密で、1日1日がとても長いのにあっという間に過ぎて行きました。得がたい経験をしたと思います。

医学部6学年次生 今枝 陽

コンケン大学耳鼻咽喉科（ENT：Ear Nose Throat）で1か月実習させて頂きました。タイの6年生に混じって実習し、外来・特殊外来・病棟回診・手術を見学しました。病棟回診では、毎朝レジデントと学生と一緒に回りbedside teachingが行われていました。学生のレベルが高く、積極的にレジデントの手伝いをしていたこと、第2外国語にも関わらず学生が英語でプレゼンテーションできることに非常に驚き、自分との差を感じました。

今回が初の海外でしたが、一緒にENTを回っている学生・レジデント・スタッフ・ほかの科の学生・患者さん・街の店員さんなど多くの人に関わることができ、言語が異なっても理解し合える喜びを実感しました。この経験を糧にして今後も語学・医学ともに励んでいきたいです。

医学部6学年次生 小郷 愛

私は4月の1か月間、コンケン大学の小児科に、留学に行かせて頂きました。実習においてはカンファレンス、回診、勉強会に参加し、病棟やNICUで実習させて頂きました。回診ではこの患者さんの所見は何があるかと先生に聞かれることもあり、タイの学生には日本よりも実践的な知識が求められているということを感じました。また、病棟やNICUでは主にレジデントから小児の救命措置や新生児の蘇生法などを学び、分娩室では新生児の処置や評価法について学びました。

タイでの実習では、日本ではなかなか見る機会のない疾患の患者さんを見ることができると、とても貴重な体験をすることができました。また、タイの医学生はとても勉強熱心で日本の研修医並みの幅広い知識を持っており、その姿を見ることができたことはこれから勉強を頑張っていく上で励みになると感じました。今回の留学で学んだことを今後医師となる上で生かしていけたらと考えています。

医学部6学年次生 長田知恭

今回、クリニカル・クラークシップ2の実習でタイ国、コンケン大学シーナカリン病院の救急科にて1か月実習させて頂きました。実習日がほぼ毎日40℃に迫る環境の中、感染症や脳卒中を中心に、多くの患者さんの実習を行うことができました。シーナカリン病院では、医療の教育現場として多くの学生、留学生在が実習をしていました。そのモチベーションは高く、極めて優秀な学生であると感じました。この国の人々は礼儀正しく、穏やかな国民性であり、医療以外にも多くを学ばせて頂いた実習でした。

医学部6学年次生 中村謙斗

私は、今回、コンケン大学小児外科学講座で4週間実習を行いました。実習は外来見学、手術見学、内視鏡検査見学を中心とし、多くの点で日本との違いを感じつつ、様々な症例に触れることができましたと感じました。

しかし、実習を通して最も衝撃を受けたことはコンケン大学の学生のレベルの高さです。医療知識の多さに圧倒され、英会話も非常に堪能であり、自身の浅学に恥じるばかりの毎日でした。また、術後患者の抗菌薬などのオーダーは学生が行い、指導医がその確認をするという臨床実習のシステムをとっており、これもまた大きく感動させられました。この実習を通して、私自身を大きく揺さぶった、素晴らしい機会であったと改めて思いました。

医学部6学年次生 望月知美

タイで一番暑いとされる4月、コンケン大学の産婦人科にて4週間の留学を経験させて頂きました。タイの産婦人科では、サラセミアが多く胎児水腫となる患者さんがいたり、日本では未認可の皮下埋没式避妊法が行われていたり、一度卵管結紮を行った方への卵管再吻合術が一般的に行われていたり、日本とは異なる外国の医療に目を向ける良い機会となりました。また、実習以外では、コンケン大学の学生と夕飯を食べに行ったり、タイの南国フルーツを毎日のように食べたり、休日にバンコクやアユタヤで遺跡や寺院巡りをしたりと充実した日々を過ごしました。



実習病院前にて



他大学の留學生とともに

バーモント大学医学部短期留学体験記

本学では、バーモント大学（UVM）と平成29年度に学術国際交流協定を締結して以降、更なる国際交流の拡充を目指し、学生の交流活動を中心に積極的に活動しております。そのプログラムの一環として、臨床実習選択（elective）コースへ本学医学部学生を派遣しています。

平成31年度のプログラムとして、平成31年3月30日（土）から4月28日（日）まで1名の学生が留学しました。この留学を終えた学生から寄せられた体験記をご紹介します。

「UVM臨床実習選択コース」への派遣者

医学部6学年次生 椎原 眞

バーモント大学 Medical School で学ばせて頂いたことは、アメリカの医学教育の雰囲気であります。もちろん医学が扱うのは人間ですし、戦後わが国ではアメリカの医学教育を受け入れてきたということから、学生の扱う領域において差異はないとも言えるでしょう。

しかしながら、なかなか文字にするのが難しいのですが、アメリカの医師たちがプロフェッショナルとはどうあるべきか、というのを体現して職務にあたっているのを垣間見ることができました。

ICU では「搬送された患者は断れない」ということ、又は泌尿器においては「今後 iPhone で排尿コントロールする機材が販売される」ということ、更に病理では「オリンパス製の顕微鏡が活用されている」ということを惜しげもなく公開して頂いたことには、関係各所に対し感謝の念に堪えません。

この度の留学で身に付いたことで最大の財産というべ



きことは、「アメリカだったらどうだろう？」と振り返る機会が生じることだと思っています。ふと、疑問に思ったことでも、日本人の医師としての視点だけでなく、別の見方を持つことができるようになったことは一生の財産となると私は確信しております。

藤原祥裕病院長 所信表明

令和元年5月23日（木）大学本館たちばなホールにおいて、藤原祥裕病院長による所信表明が開催されました。多くの職員が出席し、藤原病院長から新病院開院からの診療実績、愛知医科大学病院の「理念」、「基本方針」、そして令和元年度の目標である「医療安全対策の徹底」、「合理的で持続可能な経営管理の実現」、「職員の適正な労働環境の確保」、「チーム医療体制の構築を推進」の説明がありました。

また、新病院建設のスローガン（行動指針）であった「Plus Ultra 創造する未来へ 限界を超えて、さらにその先へ」、「元気ホスピタル～あなたを元気にする・私も元気になる～」を再認識し実行することを強調されました。

最後に、藤原病院長から職員に対し「愛知医科大学病



所信表明する藤原病院長

院の将来を創るのは皆さんであり、発展・成長に貢献して頂けることを期待しています。」と締めくくられました。

新しくなった緩和ケア研修会

緩和ケアセンター・教授 森 直治

緩和ケア研修会は平成30年度から新指針に基づき、学内者に加え地域の医師・歯科医師と医療従事者を対象とした研修会となりました。本院では、平成30年度に3回、令和元年度に1回（7月21日（日））の研修会を開催し、約70名の医師及び約30名の医療従事者の参加を得ています。

平成28年に改正されたがん対策基本法において、緩和ケアは「がんその他の特定の疾病に罹患した者に係る身体的もしくは精神的な苦痛又は社会生活上の不安を緩和することによりその療養生活の質の維持向上を図ることを主たる目的とする治療、看護その他の行為をいう。」とされ、がん以外の疾病も対象となることが明記されました。また、「医療として提供されるものその他のがん医療に携わる専門的な知識及び技能を有する医師その他の医療従事者の育成を図るために必要な施策を講ずる。」とされ、医師以外の医療従事者も緩和ケアの修得を推進

することが記載されました。これに呼応し、緩和ケア研修会の開催指針も新しく「がん等の診療に携わる医師等に対する緩和ケア研修会の開催指針」と二つの「等」が入り、がんや難治性疾患の診療に携わる全ての医師・歯科医師と、緩和ケアに従事するその他の医療従事者を対象とした研修会となっています。

研修会プログラムは従来2日間から、「e-learning」と1日の「集合研修」で構成されるものになり、拘束時間が1日となったため受講しやすくなっています。本学では、平成30年度までに90%を超える医師が既に緩和ケア研修会を修了しています。今後は医師・歯科医師とともに、他の医療従事者も多く受講して頂けるように、年3回の研修会を開催してまいります。多くの方の受講をお待ちしております。

令和元年度第1回・第2回大学院医学研究科FD特別講義開催

平成28年度から大学院医学研究科FD（ファカルティ・ディベロップメント）として特別講義を開催しており、今年度も2回実施しました。

第1回目は、令和元年5月15日（水）大学本館302講義室において開催され、講師として国立研究開発法人理化学研究所革新知能統合研究センター病理情報学チームリーダーの山本陽一朗氏をお招きしました。山本氏には「人工知能と医療～AIからみた細胞像」をテーマとして講演して頂きました。

第2回目は、令和元年5月29日（水）大学本館201講

義室において開催され、講師として神戸大学医学部附属病院緩和と支持治療科特命教授の木澤義之氏をお招きしました。木澤氏には「人生の最終段階における医療とアドバンス・ケア・プランニング」をテーマとして講演して頂きました。

当日は、大学院医学研究科の多くの担当教員が参加し、今後の研究・教育の質の向上につながるものとなりました。医学研究科では、引き続きFDの特別講義を開催し、更に授業内容・方法を改善し向上させて参ります。

URA講演会開催 ～大学研究力の向上を目指して～

令和元年7月19日（金）午後5時から大学本館201講義室において、自らも活発に研究活動を行い、大学におけるURAの役割等に造詣が深い講師2名をお招きして「大学研究力の見える化分析とURA講演会」をテーマとした講演会が開催され、多くの研究者の出席がありました。

この講演会は、大学における研究力を高めるために、昨今URA（University Research Administrator）の存在が重要視されており、本学においても、学内の研究を横断的に結び付け、研究力の底上げ、向上を図っていくため、URAに関する情報収集をするとともに、URAへの理解を深めることを目的として実施しました。

講演会では、まず、藤田医科大学研究支援推進本部・

（兼）総合医科学研究所小清水久嗣准教授の「独創一理～研究力と情報発信の強化をめざした藤田医科大学の取り組み～」と題した講演が行われ、続いて、大学共同利用機関法人自然科学研究機構小泉周特任教授の「大学の研究力をどう測るか？－量・質・厚み－」及び「研究力向上におけるURAの果たす役割」と題した講演が行われました。最新の動向を踏まえた内容に、聴衆は深い感銘を受けたようで、講演中から多くの質問や活発な議論が行われ、充実した内容の講演会となりました。

この講演会を契機として、今後URAの効果的な研究への関与を推進し、本学の研究力がますます向上していくことが期待されています。

生物学 武内恒成教授 AMED事業のシーズとして企業導出成功

医学部生物学の武内恒成教授が研究代表を務める日本医療研究開発機構（AMED）の研究事業が、高く評価され、製薬企業へのシーズ導出に成功しました。

AMEDの「創薬支援ネットワーク」は、アカデミアの優れた研究成果から革新的新薬の創出を目指した実用化研究をオールジャパンで支援する日本初の創薬支援制度です。当該研究事業に採択されていた武内教授が研究代表を務める「神経再生促進作用を持つ脊髄損傷治療薬の探索」は、実用化の可能性が高い創薬シーズ（新標的・新物質）として、探索研究から前臨床開発までの支援を

受けてきました。

このたび、AMED創薬戦略室は、当該研究成果による創薬シーズを公募により製薬企業に導出したことをプレスリリースしました。本研究内容は、脊髄損傷の回復を妨げる要因となる酵素の働きを阻害する医薬品開発の案件であり、いまだ根本治療法の無い脊髄損傷と中枢神経再生治療に対する創薬展開が高く評価されました。同研究事業による製薬企業へのシーズ導出は、AMEDの全128テーマのうち7件目の成功例であり、非常に厳しい倍率を通過しての成果となりました。

高大連携 総合学術情報センター図書館の利用について

総合学術情報センター（図書館部門）では、愛知県立長久手高等学校と愛知医科大学との高大連携の一環として、長久手高校の生徒及び教職員の学習のために各種サービスを提供しています。

図書館が開館している平日及び土曜日に、医学・看護学の専門書の閲覧及び貸し出し、閲覧席やグループ学習室の利用、専用端末から医療系データベースの検索やフルテキストの閲覧ができます。

令和元年6月5日（水）には、医療看護コースの生徒に1時間の図書館利用ガイダンス、図書館ツアーを実施し、基本的な資料の探し方や施設の利用方法などを説明しました。図書館を積極的に学習に活用頂きたいと思います。

利用時間等詳細については、総合学術情報センター（図書館部門）までお問い合わせください。

カレーハウスCoCo壱番屋創業者 宗次徳次氏によるSD講演会

令和元年5月28日（火）午後5時30分から大学本館たちばなホールにおいて、カレーハウスCoCo壱番屋創業者である宗次徳二氏を講師にお迎えし、「夢を持つな！目標を持って！」をテーマにSD講演会が開催されました。

【写真】

講演会には280名を超える教職員が出席し、宗次氏のお話には耳を傾けました。宗次氏には自身の想像を絶する生き立ちから学生時代のエピソード、カレーハウスCoCo壱番屋創業秘話、笑顔の大切さなど、多岐にわたるお話をたくさんのユーモアを交えてお話頂きました。

受講した教職員からは、「宗次先生のお話は改めて自身を振り返る良い機会となり、感銘しました。」「サー



ビス業に徹してこられた宗次氏の心意気を感じられる講演でした。」「患者さんに接する時に一番大切なのは笑顔であると聞き、改めて自分の接し方も気を付けようと思いました。」といった感想がありました。

2019年度事務管理職SD「愛知県の行政改革」開催

令和元年7月26日（金）午後3時から大学本館201講義室において、愛知県総務局総務部総務課長の江口幸雄氏を講師として「愛知県の行財政改革と業務効率化の取組」をテーマに事務部門の管理職SDが開催されました。

【写真】

事務部門では、大学の効果的な運営を図るために必要な知識の習得を目的としており、今回は、愛知県庁における行政改革の取り組みを学びました。愛知県庁は、「しなやか県庁創造プラン」に基づき全庁をあげた行政改革を推進しており、事務業務の効率化、情報システムの効率化・クラウド化等が進められています。今回のSDでは、絶え間なく続けられている県の行財政改革の流れの説明に加え、ICTの活用事例の紹介がありました。

実施後に行った受講レポートでは、「本学でも導入をすれば効果的だと思うもの」の質問に対し、「ペーパーレス会議」、「RPA」、「音声認識システム」に注目が集まり、「会議の資料・議事録を作成するための時間が膨大。」、「経費の圧縮と作業時間の大幅な短縮につながる。」、「RPA



に取り組むことで業務の標準化及び改善への意識改革につながる。」といった意見がありました。

受講者からは、「進んでいる取組をされていて、見習うことが数多くあると感じた。」、「根本的な組織改革を行う等、変わらなければいけないと気づかされた。」、「専門部署を設置して全学的に取り組む必要があるだろう。」といった感想がありました。

2019年度SD「事務職員向け学内研修」開催

令和元年6月から7月、事務職員が各部署の業務内容と最新情報を理解することで知識向上と業務の効率化を図ることを目的として、学内研修を開催しました。【写真】

最新の決算情報、大学入試改革、医学教育分野別評価、私立大学等改革総合支援事業など、まさに今本学が取り組むべき課題や事業についてそれぞれの担当者から説明があり、普段の業務の中ではなかなか知ることのできない深い知識や情報を事務職員同士が共有することができました。

受講者からは、「他部署の詳しい業務の説明を聞く機会があまりないので、勉強になりました。」、「本学をとりまく課題について、簡潔かつ明瞭に解説して頂き、とても参考になりました。」といった感想がありました。



今後も様々な部署に講師を依頼し、本研修を事務職員の知識向上と情報共有の機会とする予定です。

＜事務職員向け学内研修＞

6月21日（金）財務・管理室

テーマ：最新の決算情報を元にした本学の財務状況の理解

講師：大平正宏主査

6月26日（水）看護学部事務部

テーマ：本学で進められている教学改革について

講師：山本ヨベル主事（教学課）

7月3日（水）医学部事務部

テーマ：本学で進められている教学改革について

講師：木下大輔主査（学生課）

余間辰徳主任（教務課）

7月17日（水）資金・出納室

テーマ：補助金に関する基礎知識

講師：野口敬生改革総合推進監

大西加珠季主事

2019年度全教職員S D「自己肯定力アップ研修」開催

令和元年7月23日（火）～25日（木）の3日間にわたり、教員含む全職員を対象とした自己肯定力アップ研修が開催されました。【写真】

合計297名の教職員が参加し、自己肯定力の重要性や、自己肯定力が組織全体に及ぼす影響について学習しました。研修の中で数多く行われたペアワークでは、具体的なケースを体験し、自己肯定力を上げる方法などについて理解を深めました。今回の研修は、職員が自己を振り返るとともに、自己肯定力を上げる意義を学ぶ機会となりました。

受講者からは、「ポジティブな言葉を普段から使うことが自分の行動だけでなく、職場の環境にも影響するところだ感心でき、気をつけていかないといけないところだと感じた。」「自己イメージは、今後の人生が変わるぐらい重要なものだということが理解できたので、今回習ったことを早速実行したいと思いました。」といった感想がありました。

○「自己肯定力アップ研修」

日程：7月23日（火）、24日（水）、25日（木）

内容：各日90分の講義を3セッション実施

場所：医心館多目的ホール1、2



献血ご協力ありがとうございました

令和元年6月18日（火）大学本館1階南側ロビーにおいて、愛知県赤十字血液センター主催の本学職員等による団体献血が実施され、職員を始め多くの方にご協力頂きました。

せっかく献血をお申し出頂いたのに体調によりご協力頂けなかった方々は、ご自愛頂き、次回の献血の際には是非ご協力くださるようお願いいたします。

今回は令和2年1月頃に予定していますので、ご協力よろしくお願ひします。

夏の団体献血

・ 献血受付数	・ 47名
・ 献血できた方	・ 33名 (400ml・33名)
・ 献血できなかった方	・ 14名

生物学 武内恒成教授 平成30年度特別研究員等審査会専門委員審査員表彰

医学部生物学の武内恒成教授が、日本学術振興会「平成30年度特別研究員等審査会専門委員（書面担当）審査員表彰」に選考されました。

この表彰は、日本学術振興会による人文社会・工学・医学を包含した学術研究の将来を担う若手研究者の養成・確保を目的とした特別研究員事業の審査において、有意義な審査意見を付した委員を表彰するものです。

平成30年度は書面審査を行った1,000人強の専門委員等から109人が選考されました。7月18日（木）に佐藤啓二学長及び若槻明彦医学部長に受賞の報告があり、その後懇談が行われました。



佐藤学長、若槻医学部長と（中央：武内教授）

血管外科 三岡裕貴助教 第39回日本静脈学会総会 Young Investigators Award受賞

血管外科の三岡裕貴助教が、令和元年7月5日（金）ウインクあいちにおいて開催された第39回日本静脈学会総会において、Young Investigators Awardを受賞しました。

これは、平成30年に静脈学に投稿された論文のうち、40歳以下の著者による論文の中から、三岡先生が発表した「左腕頭静脈圧迫に関するCT画像による解剖学的検討」が最優秀賞として選定されました。

表彰を受けた三岡助教から「血管外科領域の主要学会の一つである日本静脈学会にてYoung Investigators Awardを受賞することができました。ご指導頂いた外科学講座（血管外科）の石橋宏之教授、解剖学講座の中野隆教授、内藤宗和教授を始めとする先生方のおかげでこのような素晴らしい賞を頂くことができました。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。今回の賞を励みにしてこれからも頑張ってお参りたいと思います。」との感想がありました。



表彰式での記念撮影
石橋教授（左）と三岡助教（中央）

地域看護学 坂本真理子教授 日本看護協会会長表彰受賞

地域看護学の坂本真理子教授【写真】が、令和元年6月6日（木）函館アリーナにおいて開催された2019年度日本看護協会通常総会において、日本看護協会会長表彰を受賞しました。

これは、日本看護協会会員として多年にわたり看護業務に精励され、協会活動に大きく貢献された功績が評価されたものです。

表彰を受けた坂本教授から「このような表彰を頂きましたことは、これから看護職の皆さんとともに看護の発展に向けて頑張るようという叱咤激励の機会と受けとめております。今後ともご指導、ご鞭撻を賜りますようお願いいたします。」との感想がありました。



在宅看護学 沢田淳子助教 日本老年看護学会 令和元年度研究論文優秀賞受賞

在宅看護学の沢田淳子助教が、令和元年6月7日（金）仙台国際センターにおいて開催された日本老年看護学会において、令和元年度研究論文優秀賞を受賞しました。

これは、同会において沢田助教が発表した「特別養護老人ホームにおける看護職であるケア管理者のケア管理能力自己評価票の開発」が、老年看護学の発展に寄与する優れた研究論文として選定されました。

表彰を受けた沢田助教から「この度は名誉ある賞を頂き、大変光栄に存じます。これも皆さま方のご協力並びにご指導のおかげであると感謝しております。今後も臨床の皆様の実践並びに高齢者の皆様への貢献を目指し、なお一層精進していく所存でございます。」との感想がありました。



表彰式での記念撮影 沢田助教（左）

優良自動車運転手表彰

毎年春に模範的な運転を行い、交通安全の確保に貢献している方に対し、愛知警察署、交通安全協会及び愛知安全運転管理協議会から表彰が行われています。

今年は、総務部の後藤佳志部長【写真】が令和元年5月30日（木）に表彰を受けられました。

この表彰は、運転士の交通安全に配慮し、自ら安全運転を心掛け、長年無事故・無違反を続けていることが評価されたものです。

後藤部長からは、「この度、荣誉ある表彰を頂き光栄に思います。これからも、公用車・スクールバス運転士の交通安全への配慮を徹底するとともに、自身の安全運転についても心掛けていきたいと思ひます。」との感想がありました。



本学講座等の主催による学会等

【学会名】	【開催日】	【会長等】
・第93回日本感染症学会総会・学術講演会	平成31年4月4日(木)～6日(土)	三鴨 廣繁
・第297回東海外科学会	平成31年4月7日(日)	佐野 力
・WONCA Asia Pacific Regional Conference 2019	令和元年5月15日(水)～18日(土)	伴 信太郎
・The 40th Annual Meeting of International Society for Gravitational Physiology	令和元年5月26日(日)～31日(金)	岩瀬 敏
・第20回乳幼児けいれん研究会国際シンポジウム	令和元年5月31日(金)・6月1日(土)	奥村 彰久
・第5回JAPSAMPRP幹細胞研究会	令和元年6月8日(土)	出家 正隆
・第33回ヘルペスウイルス研究会	令和元年6月20日(木)～6月22日(土)	渡辺 大輔
・第25回日本ヘリコバクター学会学術集会	令和元年6月21日(金)～6月23日(日)	菊地 正悟
・日本睡眠学会第44回定期学術集会	令和元年6月27日(木)・6月28日(金)	塩見 利明
・第81回耳鼻咽喉科臨床学会総会・学術講演会	令和元年6月27日(木)・6月28日(金)	植田 広海
・第39回日本静脈学会総会	令和元年7月4日(木)・7月5日(金)	石橋 宏之
・第41回日本疼痛学会	令和元年7月12日(金)・7月13日(土)	牛田 享宏
・第60回日本神経病理学会総会学術研究会	令和元年7月14日(日)～7月16日(火)	吉田 眞理

第93回日本感染症学会総会・学術講演会

感染症科・教授 三鴨 廣繁

第93回日本感染症学会総会・学術講演会は、平成31年4月4日(木)・5日(金)・6日(土)の3日間、名古屋市にある名古屋国際会議場において、会長：愛知医科大学感染症科教授・三鴨廣繁、プログラム委員長：富山大学大学院医学薬学研究部感染予防医学講座教授・山本善裕先生、プログラム副委員長：国立国際医療研究センター病院国際感染症センター長・大曲貴夫先生、事務局長：愛知医科大学感染症科教授(特任)・山岸由佳として参加者2,609名の参加者を得て盛大に開催しました。

日本感染症学会は感染症専門医育成学会であり、会員は感染症診療及び研究に従事する基礎系及び臨床系の医師が主体ではありますが、基礎から臨床まで多くの研究者で構成され、職種も医師、薬剤師、臨床検査技師、看護師などの医療関連従事者に加えて、行政関係者、企業の研究者まで多岐にわたる大きな学会に発展してきています。

第93回総会・学術講演会では、学会テーマとして、『百折不撓』と『磨穿鉄硯』の姿勢で世界をリードする』を掲げさせて頂きました。「百折不撓」とは「何度失敗しても信念を曲げないこと」であり、「磨穿鉄硯」とは「強い意志を持ち続けて、達成するまで変えないこと」です。日本の先達の先生方は、一心不乱に研究や臨床を行う中で、世界に先駆けて、感染症の原因微生物を発見したり、数多くの診断薬や抗感染症薬を創成してきたという歴史があります。本学会が世界の感染症学をリードしていくような学会として成長するために第93回総会・学術講演会ではこれまでにない取り組みとして教育講演、一般演題について多くの英語セッションを設定しました。

末筆になりましたが、本会の開催にあたり、一般財団法人愛知医科大学愛恵会からもご支援を頂きましたこと、この場を借りて厚く御礼申し上げます。

第297回東海外科学会

平成31年4月7日（日）愛知医科大学本館2階にて、第297回東海外科学会を開催しました。本会はその開催回数からもわかるように東海地区の若手外科医の登竜門として長く伝統をもち、年2回開催されています。本学としては平成20年に第275回を前任の野浪敏明先生が開催されて以来となります。

今回は同時に第27回日本外科学会生涯教育セミナーも開催されたこともあり、約400名という多くの参加者が

外科学講座（消化器外科）・教授 佐野 力

みられました。午前中には33演題のなかから若手奨励賞が3名選ばれ、評議員会で表彰されました。他に一般演題が33題討論され、ランチョンセミナーに東京医科歯科大学消化器外科教授の絹笠祐介先生による「直腸癌に対する最新の集学的治療」の講演には教室に入りきれない盛況ぶりを呈しました。

末筆にはなりましたが、皆様方の多大なご支援を頂きましたことを心より御礼申し上げます。

WONCA Asia Pacific Regional Conference 2019

令和元年5月15日（水）～18日（土）に京都国際会館において‘WONCA APR 2019’を当職が大会長で開催いたしました。WONCAとは、‘World Organization of National Colleges, Academies and Academic Associations of General Practitioners/Family Physicians’の頭文字をとったものです。WONCA APRは、そのアジア太平洋地区（Asia Pacific Region）の学会であり、参加者は46か国から1,687人でした。

今回の大会テーマは、‘Medical generalists: bringing forward a brighter future’で、Keynote speech 3題、Plenary session 7題、提案型のワークショップ（WS）

医学教育センター・特命教授 伴 信太郎

とシンポジウムが50以上、口演とポスターを合わせて一般演題が500以上発表され盛況のうちに会を終えることができました。なかでも、愛知医科大学病院の研修医が積極的に参加してくれたことは特筆されます。

なお、本会の開催につきましては、一般財団法人愛知医科大学愛恵会からもご支援を頂きました。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

【WONCAのNEWS LETTERへの報告を下記でご覧頂けます】

https://www.globalfamilydoctor.com/News/Successful_WONCAAPR2019inKyotoJapan.aspx

The 40th Annual Meeting of International Society for Gravitational Physiology

令和元年5月26日（火）～31日（金）に第40回国際重力生理学学会・宇宙生命医科学学術集會を名古屋大学野依記念学術交流館において、本学IR室佐藤麻紀講師を事務局長として、開催いたしました。本学会は第40回になり、毎年開催される国際重力生理学学会（International Society for Gravitational Physiology）と、岩瀬が講師を務めた名古屋大学大学院リーディングプログラムであるフロンティア宇宙開拓リーダー養成プログラムの集大成である宇宙医科学シンポジウムの合同開催で、重力生理学学会とはいえ、宇宙医科学の全般の内容も含む広範な学会でした。これまでの宇宙医学の問題点である神経前庭系障害、心血管系デコンディショニング、筋萎縮、骨代謝異常に加えて、最近のトピックである①長期宇宙飛行中の多くの宇宙飛行士に発症し、視神経乳頭浮腫、脈

生理学講座教授（特任）岩瀬 敏

絡膜襞及び遠視性シフトを特徴とするSpaceflight Associated Neuro-ocular Syndrome, SANS, 宇宙飛行関連神経眼症候群と②宇宙飛行士のMRI脳画像に、中心溝の狭小化、脳の上方偏位、頭頂部の髄液腔の狭小化、などの変化が起きている報告されたBrain Structural Plasticity with Spaceflight 宇宙飛行関連性脳構造可塑性、が議論されました。世界14か国から88名の出席者、日本国内からも22名の出席者を迎え、四つのシンポジウム、67の一般演題の発表があり、盛況な学会となり、成功裏に終えることができました。

本学会の運営に当たっては、一般財団法人愛知医科大学愛恵会を始め、皆様方より多大なるご支援、ご協力を賜りましたことに心より御礼を申し上げます。

第20回乳幼児けいれん研究会国際シンポジウム

小児科学講座・教授 奥村 彰久

令和元年5月31日（金）・6月1日（土）に、名古屋国際会議場において第20回乳幼児けいれん研究会国際シンポジウムを開催しました。

乳幼児けいれん研究会は、故福山幸夫先生が日本の小児神経科医の国際交流を目的として設立した研究会で、年に1回の国際シンポジウムを開催しています。毎回、海外の優れた研究者を多数招聘しており、公用語は英語です。今回は、新生児発作及びそれに関連する新生児脳障害をテーマに開催しました。また、今回は第61回日本小児神経学会学術集会との同時開催でしたので、参加者

も多く大変にぎやかな会となりました。

海外及び国内を合わせて20名以上の招待講演者が、先端的な業績を発表し、充実した内容の素晴らしいシンポジウムになりました。会場では活発なディスカッションがなされるとともに、懇親会などを通じて参加者も著名な研究者と直に触れ合うことができ、有意義な会になったと思います。

末筆になりましたが、本シンポジウムの運営にあたり、一般財団法人愛知医科大学愛恵会からご支援を頂きました。この場をお借りして厚く御礼を申し上げます。

第5回JAPSAMPRP幹細胞研究会

整形外科学講座・教授 出家 正隆

令和元年6月8日（土）AP名古屋名駅会議場にて、第5回JAPSAM PRP幹細胞研究会を開催いたしました。本会は、再生医療の中でもPRP・幹細胞に着目し、我が国における最先端医療の推進（Japanese association of the promotion for state of the art in medicine, JAPSAM）を目的としております。これまでは骨・軟骨、関節、神経のPRP 幹細胞による再生医療が中心で参加者の多くは整形外科医でしたが、今回は形成外科の鈴木茂彦先生に我が国初の再生医療となるJACE（再生真皮）の開発・保険収載に至る特別講演を頂き、形成外科を始

め、他科の先生方の参加を頂きました。また再生医療の臨床応用には行政との繋がりも必須なため、PMDA理事長の藤原康弘先生に新規医薬品開発に関する講演をして頂き、最終的には100名を超える参加者のもと、最先端の話題に対し活発な討論が行なわれ成功裡の終えることができましたと感じております。

会の開催に一般財団法人愛知大学愛恵会からのご支援を始め、多くの先生方にご協力を賜りましたことを心より御礼申し上げます。

第33回ヘルペスウイルス研究会

皮膚科学講座・教授 渡邊 大輔

令和元年6月20日（木）～22日（土）ネストホテル那覇において、第33回ヘルペスウイルス研究会が愛知医科大学皮膚科学講座の渡辺大輔教授と、琉球大学医学部ウイルス学の野真治教授の当番世話人で開催されました。

本研究会は基礎医学、臨床医学、獣医学、薬学、農学、理学などの幅広いバックグラウンドを持つ会員によって構成され、若手を中心に自由闊達な研究交流を行うことを主旨としており、泊り込みで開催することにより深夜まで討論を行うことができます。

今回の参加者は総勢85名で、北海道から沖縄県まで全国からヘルペス研究者が集まりました。特別講演では、東京大学医科学研究所の川口寧先生に「単純ヘルペスウイルスの増殖・病態発現機構」を、また、ワシントン大

学のJia Zhu先生に「Skin Immune Protection in Human HSV-2 infection」を、そして琉球大学医学部皮膚科学講座の高橋健造先生に「沖縄県・宮古諸島に多発する古典型カポジ肉腫の病態」を発表して頂きました。いずれの講演も非常に内容の濃いものであり、参加者からも好評を得ることができました。また、3題のスポンサーセミナー、36題の一般演題では、闊達な質疑とともに発表が行われました。研究交流会・懇親会では、美味しい食事に舌鼓を打ちながら、研究に関する討議はもちろん、昔話や近況紹介などで話が弾み、時間を忘れてしまうほどでした。

最後に、本研究会の開催にご支援とご協力を頂いた本学関係者の皆様に心より御礼を申し上げます。

第25回日本ヘリコバクター学会学術集会

公衆衛生学講座・教授 菊地 正悟

令和元年6月21日（金）から23日（日）までウインクあいちにおいて、第25回日本ヘリコバクター学会学術集会が開催されました。日本ヘリコバクター学会は、胃に感染して胃がんや胃潰瘍などの原因となるピロリ菌など、消化器に感染するヘリコバクター属の細菌の基礎的、臨床的な研究を推進することを目的とした学会です。

テーマを「学会四半世紀－研究から対策へ」とし、中高生のピロリ菌検査と除菌や成人の感染者対策による胃がんの激減をどう図っていくかをシンポジウムで取り上げました。他には、ピロリ菌以外の胃に生息するヘリコ

バクター属、除菌後の胃がん、高齢者の除菌、除菌成功率をどう上げるかなどのテーマで活発な議論が行われました。また、海外からの4名の研究者の講演に加え、中央大学の山田昌弘教授より、日本の家族の将来像に関する特別講演も行われ、参加者約1,300名と盛会のうちに終了しました。

開催に当たってご支援頂いた本学内科学講座（消化管内科）の春日井邦夫教授を始め多くの先生方、ご援助頂いた一般財団法人愛知医科大学愛恵会に深謝します。

日本睡眠学会第44回定期学術集会

睡眠科・教授（特任） 篠邊 龍二郎

令和元年6月27（木）・28日（金）名古屋国際会議場において、日本睡眠学会第44回定期学術集会を本院睡眠科（会長：塩見前教授）の主催で開催しました。

本会は、当科として、平成22年に塩見利明前教授を会長として開催した第35回学術集会以来、2度目の主催となりました。時間医療の夜明け～Le Grand Blue～を主題に掲げ、睡眠と時間生物学や時間治療に関わる講演や演題を集めました。シンポジウムが34題、共催シンポジウムが4題、教育セミナー、睡眠科学研究講座や市民

公開講座「機械時計から生体時計と睡眠を考える」の他、一般演題が口演163演題、ポスター138演題など多数の発表があり、参加者も2,400名を超える方々が集まり、大変有意義な学会となり成功裏に終えることができました。

多くの先生方にご協力賜りましたこと、一般財団法人愛知医科大学愛恵会よりご支援頂きましたこと、心より御礼申し上げます。

第81回耳鼻咽喉科臨床学会総会・学術講演会

耳鼻咽喉科学講座・教授 植田 広海

第81回耳鼻咽喉科臨床学会総会・学術講演会を令和元年6月27日（木）・28日（金）の両日、名古屋市のウインクあいちで開催させて頂きました。

この会は、平成元年に故瀧本勲名誉教授が主催されて以来30年ぶりの開催となりました。今回は、「新年代に伝えたい診療技術」というテーマで、現在の耳鼻咽喉科診療のゴールドスタンダードな技術を紹介することを目的として企画しました。海外招請講演1題、シンポジウム及びパネルディスカッション各1題、教育セミナー8

題、ハンズオンセミナー2題、一般口演59題及びポスター発表207題と盛りだくさんの講演及び発表が行われました。梅雨期で、時折雨が降るあいにくの天気でありましたが、この学会恒例の早朝ランニング大会も行うことができて、1,100人近い出席者に参加して頂き成功裏に終えることができました。

末筆になりましたが、本会の開催にあたり皆様方の多大なるご支援、ご協力を賜りましたことを心より御礼申し上げます。

第39回日本静脈学会総会

令和元年7月4日(木)・5日(金)の2日間にわたり、第39回日本静脈学会総会をウインクあいち(愛知県産業労働センター)で開催しました。当講座としては、平成19年第27回総会(会長:太田敬名誉教授, UIP Asian Chapterとの合同開催)以来12年振り、単独開催としては初となりました。

テーマとして『静かに脈々と(Steady and

外科学講座(血管外科)・教授 石橋 宏之

Continuous Progress in Phlebology)』を掲げ、着実に進歩している静脈学を熱心に学び、研究している人たちが自由に活発な議論ができる場として企画したところ、255演題、うち海外演題10題が集まりました。総参加者数1,040名、有料参加者数830名と、多くの人に参加して頂き、静脈学の広い分野で最新テーマについて熱いディスカッションをして頂くことができました。

第41回日本疼痛学会

令和元年7月12日(金)～13日(土)名古屋国際会議場において、第41回日本疼痛学会を開催しました。本会は、痛みに関わる様々な分野のエキスパートが学際的に集結して研究の成果を発表する場となっております。今学会では、「心身二元論からの脱却と新たなる挑戦」をテーマとして、海外より疼痛学のエキスパート4名を、国内からは基礎・臨床の疼痛学の第一人者の講演、公募シンポジウム及び共催ランチョンセミナーを各6セッション、共催シンポジウムを2セッション企画し、また、

学際的痛みセンター・教授 牛田 享宏

一般演題も123題(口演60題, ポスター63題)の発表があり、活発な討論が行われ、成功裏に終えることができました。医師やコメディカル、基礎研究者などと幅広い分野から多数ご参加頂き、テーマに即した学術集会となりました。

末筆になりましたが、本会の開催にあたり、多くの皆様にご協力を賜り、また一般財団法人愛知医科大学愛恵会からもご支援頂きましたこと、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

第60回日本神経病理学会総会学術研究会

令和元年7月14日(日)～16日(火)ウインクあいちにおいて、第60回日本神経病理学会総会学術研究会を開催しました。本学会は神経疾患の臨床病理学的研究や基礎神経科学分野の研究成果を発表する学祭的学会で、名古屋での開催は2003年の橋詰良夫名誉教授の第44回開催以来16年ぶりとなりました。

一般演題189題、シンポジウムなどの企画演題47題を含む計236題の発表、特別講演としてフランスのPitié-Salpêtrière Hospitalの神経病理部門のDanielle Seilhean

加齢医科学研究所・教授 吉田 眞理

教授をお招きして「History, present and prospect of neuropathology in Pitié-Salpêtrière Hospital」と題するご講演を頂き、554名の方に参加頂き、盛会裡に終了することができました。

本会の開催にあたり副会長の神経内科の道勇学教授始め多くの先生方、一般財団法人愛知医科大学愛恵会、公益信託第24回日本医学会総会記念医学振興基金にご支援を賜りましたこと厚く御礼申し上げます。

研究助成等採択者

○公益財団法人東洋医学研究財団

2019年度研究助成金

●氏名 岡田尚志郎（薬理学講座・教授）

研究題目 拘束ストレスに誘発される交感神経反応
に対する抑肝散の効果

助成金額 500,000円

○公益財団法人愛知県がん研究振興会

第44回がんその他の悪性新生物研究助成金

●氏名 猪子誠人（病理学講座・講師）

研究題目 睥がん危険因子となる新規遺伝子多型の
細胞病理学的解析

助成金額 250,000円

○公益信託第24回日本医学会総会記念医学振興基金

2019年度研究助成金

●氏名 池上啓介（生理学講座・助教）

研究題目 眼圧概日リズムを制御する遺伝子の探
索・解析

助成金額 1,000,000円

○公益信託仲谷鈴代記念栄養改善活動振興基金

助成金

●氏名 前田圭介（緩和ケアセンター・准教授）

研究題目 脳卒中後嚥下障害とサルコペニアの嚥下
障害との関連性解明

助成金額 500,000円

令和元年度厚生労働科学研究費補助金交付決定

令和元年度科厚生労働科学研究費補助金が採択され、次のとおり交付決定がありました。

（金額単位：千円）

研究事業名	研究代表者	直接経費	間接経費	研究課題
新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業	三 嶋 廣 繁 医 学 部 感染症科, 教授	7,095	1,205	性感染症に関する特定感染症予防指針に基づく対策の推進に関する研究
地域医療基盤開発推進研究事業	宮 田 靖 志 医 学 部 地域総合診療医学寄附講座, 教授(特任)	1,900	550	大規模データを用いた, 地域の医療従事者確保対策に関する研究

- ・令和元年7月1日時点の情報を掲載
- ・氏名は、e-Rad（府省共通研究開発管理システム）研究者登録名にて記載
- ・「交付申請書」を基に作成

令和元年度科学研究費助成事業 (科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金) 交付決定

令和元年度科学研究費助成事業（科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金）が採択され、次のとおり交付決定がありました。

（金額単位：千円）

研究種目	研究代表者	直接経費	間接経費	研究課題
基盤研究（B） （補助金）	中野隆 医学部 解剖学, 教授	1,500 (継続)	450	フィジカルアセスメントに繋がる総合的解剖学実習モデルの構築を目指して
〃	菊地正悟 医学部 公衆衛生学, 教授	2,900 (継続)	870	腸肝型ヘリコバクター感染と胆道がん・膵がんリスク
〃	内藤宗和 医学部 解剖学, 教授	3,000 (継続)	900	高圧メディカルガスを用いた新しい臓器保存法の確立
〃	都築忍 医学部 生化学, 教授(特任)	3,700 (継続)	1,110	ALL特異的融合遺伝子のin vivo機能解析から見た白血病多段階発癌機構の解明
〃	渡辺秀人 分子医科学研究所 教授	4,100 (継続)	1,230	病態の組織破壊・修復を制御する細胞外プロテオグリカンの代謝と分解産物の新規機能
〃	岡田洋平 医学部 内科学(神経内科), 准教授	3,600	1,080	疾患iPS細胞を活用した液性因子による運動ニューロン疾患の早期病態解明
〃	平井宗一 医学部 解剖学, 教授(特任)	4,800	1,440	新たな内因性生理活性ガス送達システムの構築と移植医療への応用
若手研究（A） （補助金）	伴野勸 医学部 感染・免疫学, 助教	3,100 (継続)	930	新たな機能性脂肪酸~奇数鎖脂肪酸~の抗炎症作用機序の解明
特別研究員 費 （補助金）	伊藤卓治 客員研究員	1,300	390	iPS細胞による革新的神経・筋共培養システムを用いた運動ニューロン疾患の病態解析
基盤研究（C） 一般（基金）	内田育恵 医学部 耳鼻咽喉科学, 准教授	(延長)	0	聴覚コミュニケーション障害からみた高齢者・障害者・認知症ケアの在り方に関する検討
〃	山森孝彦 医学部 外国語, 教授	(延長)	0	医学部低中学年を対象とした英語医療面接指導のための評価ルーブリックの開発
〃	稲垣秀晃 客員研究員	(延長)	0	超音波とフェロモンを評価に加えた実験動物におけるより精度の高い愛護と福祉の確立
〃	久保昭仁 医学部 内科学(呼吸器アレルギー内科), 教授(特任)	(延長)	0	ゲノムワイド解析による進行肺がんの治癒実現へ向けた基盤研究
〃	増渕悟 医学部 生理学, 教授	(延長)	0	時間治療のための腫瘍内低酸素と生物時計の相互作用の解明
〃	羽渕脩躬 客員教授	(延長)	0	炎症・疼痛制御における肥満細胞, マクロファージ高硫酸化プロテオグリカンの機能解明
〃	森島泰雄 客員教授	(延長)	0	国際共同HLA研究による移植片対宿主病と移植片対白血病反応機序の解明
〃	鈴木耕次郎 医学部 放射線医学, 教授	(延長)	0	マルチパラメトリック画像による胆管癌の時空間的予後決定因子解析
〃	森莉那 看護学部 成人看護学, 講師	(延長)	0	成人期がん患者の療養と社会生活の両立を支援するソフトウェア開発と運用可能性の検討
〃	坂本真理子 看護学部 地域看護学, 教授	(延長)	0	多文化に対応する子どもと親のための健康教育ハンドブックの開発

研究種目	研究代表者	直接経費	間接経費	研究課題
基盤研究(C) 一般(基金)	西原真理 医学部 学際的痛みセンター教授(特任)	900 (継続)	270	感覚過敏に対する新しい治療法の開発
〃	小島徳子 看護学部 母子看護学, 助教	200 (継続)	60	NICU入院児を持つ褥婦への足湯による乳頭・乳輪の状態の 定量化と搾乳に及ぼす効果
〃	大道美香 医学部 解剖学, 助教	700 (継続)	210	習慣的運動による慢性痛予防機序の基礎的解明
〃	松永昌宏 医学部 衛生学, 講師	700 (継続)	210	ソーシャル・キャピタルと心身の健康との関連に関する社会 神経科学的研究
〃	犬飼洋子 医学部 生理学, 講師	100 (継続)	30	辛味性(口腔内TRPV1活性化)発汗による選択的脳冷却の 検討: 熱中症予防への応用
〃	梅澤一夫 医学部 分子標的医薬寄附講座, 教授	1,100 (継続)	330	三次元培養がん細胞の浸潤を阻害する微生物由来生理活性物 質の探索
〃	小西裕之 医学部 生化学, 教授(特任)	1,400 (継続)	420	CRISPR-Cas9 nickaseによるDNA二重鎖切断を伴わないゲノ ム編集
〃	杉浦信夫 客員研究員	1,300 (継続)	390	酵素合成コンドロイチン硫酸のナノ粒子複合体の調製と, CS受容体の探索と機能解析
〃	山村彩 医学部 生理学, 講師	1,100 (継続)	330	カルシウム感受性受容体を創薬標的とした新規肺高血圧症治 療薬の探索
〃	加塩麻紀子 医学部 生理学, 講師	1,100 (継続)	330	CALHMチャンネル極性ソーティングの分子基盤の解明
〃	稲熊真悟 医学部 病理学, 講師	800 (継続)	240	膵癌細胞におけるPD-L1発現と腫瘍幹細胞性・上皮間葉転換 による悪性形質の解析
〃	小松孝行 医学部 感染・免疫学, 准教授	900 (継続)	270	パラミクソウイルスV蛋白質のインフラマソーム抑制能は病 原性発現に重要か?
〃	乾匡範 医学部 感染・免疫学, 講師	1,200 (継続)	360	小胞体膜分子Nogoによる病原性自己抗体産生の新たな制御 機構の解明
〃	林櫻松 医学部 公衆衛生学, 教授(特任)	700 (継続)	210	糖尿病と膵がんに関する分子遺伝疫学的解析
〃	岡田尚志郎 医学部 薬理学, 教授	1,200 (継続)	360	室傍核におけるノルアドレナリン神経系-CRF連関はストレ ス反応持続に関与するか?
〃	中出幸臣 医学部 肝胆臓内科, 准教授(特任)	800 (継続)	240	迷走神経に着目したNASH病態の解明と治療応用
〃	神谷英紀 医学部 内科学(糖尿病内科), 准教授	700 (継続)	210	体性幹細胞とその分泌因子を用いた世界初の糖尿病性神経障 害治療法の開発
〃	中山享之 医学部 中央臨床検査部, 教授(特任)	1,300 (継続)	390	白血病幹細胞を保護する骨髄細動脈ニッチ: その制御機構の 解明
〃	倉橋宏和 医学部 小児科学, 講師	1,400 (継続)	420	グリアに着目した急性脳炎・脳症の病態解明と新規治療法の 開発
〃	山田恭聖 医学部 周産期母子医療センター, 教授(特任)	900 (継続)	270	新生児期痛みストレスによる自閉症スペクトラム障害を阻止 する内分泌機能保護療法
〃	矢野智紀 医学部 外科学(呼吸器外科), 教授(特任)	1,000 (継続)	300	女性ホルモンが非浸潤性肺腺癌に及ぼす影響: 新たな肺癌治 療法の確立を目指して
〃	大須賀浩二 看護学部 病態治療学, 教授	1,100 (継続)	330	慢性硬膜下血腫被膜への好酸球誘導因子の解明と新たな治療 法の確立

研究種目	研究代表者	直接経費	間接経費	研究課題
基盤研究(C) 一般(基金)	武内恒成 医学部 生物学, 教授	700 (継続)	210	新規バイオマテリアルを用いた脊髄損傷治療の可能性－細胞外環境操作と炎症制御解析－
〃	藤原祥裕 医学部 麻酔科学, 教授	700 (継続)	210	局所麻酔薬の神経細胞毒性においてT型カルシウムチャンネルが果たす役割の解明
〃	岩崎研太郎 医学部 腎疾患・移植免疫学寄附講座, 准教授	900 (継続)	270	T細胞重集団の偏りを生むHLA・A/B抗体と内皮細胞応答：抗体陽性移植の新機軸
〃	吉川和宏 研究創出支援センター 特務教授	1,400 (継続)	420	子宮頸がんを発生させるHPVのE7蛋白を標的とした細胞内分子標的療法の開発
〃	若槻明彦 医学部 産婦人科学, 教授	1,100 (継続)	330	子宮内膜症女性の心血管疾患発症予防のための新しいホルモン療法の開発
〃	小川徹也 医学部 耳鼻咽喉科学, 教授(特任)	1,100 (継続)	330	頭頸部がん治療における新たな免疫化学療法の開発－CTLと抗がん薬併用の意義
〃	加納秀記 医学部 救急診療部, 教授(特任)	600 (継続)	180	ICU関連筋力低下における骨格筋前駆細胞の動態解析: 間葉系幹細胞移植療法の応用
〃	佐藤麻紀 医学部 I R 室, 講師	1,300 (継続)	390	小児におけるLED光暴露がホルモンリズムおよび時計遺伝子の発現に及ぼす影響
〃	小松紘司 医学部 生理学, 講師	1,000 (継続)	300	卵胞発育制御機構の解明と原始卵胞のin vivo activation法の開発
〃	村上秀樹 医学部 病理学, 教授(特任)	1,100 (継続)	330	メラノーマにおけるがん遺伝子産物MITFのSUMO化機構の解明と標的治療への応用
〃	鈴木進 研究創出支援センター 准教授	1,200 (継続)	360	がん免疫抑制環境の改善に基づく新たながん免疫療法の開発に向けた基礎的研究
〃	丹羽淳一 医学部 脳卒中センター, 教授(特任)	1,400 (継続)	420	疾患特異的iPS細胞を用いたポリグルタミン病創薬スクリーニングシステムの開発
〃	垣田博樹 医学部 周産期母子医療センター, 講師	1,100 (継続)	330	新生児低酸素性虚血性脳症に対するグリア由来脳内微小環境改善による新規低体温療法
〃	奥村彰久 医学部 小児科学, 教授	1,100 (継続)	330	MERS－異常言動スペクトラムの分子生物学的基盤の解明
〃	伊藤恭彦 医学部 内科学(腎臓・リウマチ膠原病内科), 教授	1,200 (継続)	360	腹膜透析における除水不全, 腹膜機能障害の病態解明と新たな治療戦略
〃	太田明伸 医学部 生化学, 講師	1,100 (継続)	330	PBKが骨髄腫の悪性化に寄与する作用機序の解明と治療標的分子としての可能性の検討
〃	高見昭良 医学部 内科学(血液内科), 教授	700 (継続)	210	造血細胞移植関連遺伝子多型機能に基づく免疫制御性マイクロRNAの探索
〃	野田貴幸 薬学部 薬剤師	1,000 (継続)	300	ドナー特異的抗体(DSA)制御に向けたHLA産生B細胞への多角的アプローチ
〃	新井健一 医学部 運動療育センター, 准教授	900 (継続)	270	腸内細菌叢の痛みの認知や調節機能におよぼすメカニズム
〃	藤田義人 医学部 周術期集中治療部, 教授(特任)	1,400 (継続)	420	RNA iを用いた脳水チャンネル機能調節による脳浮腫抑制の臨床応用
〃	武山直志 医学部 救命救急科, 教授	1,000 (継続)	300	多発外傷時における白血球遺伝子発現プロファイル解析：T-iPS細胞療法の応用
〃	津田雅庸 医学部 救命救急科, 教授(特任)	900 (継続)	270	敗血症におけるInnate Lymphoid Cellの機能解析

研究種目	研究代表者	直接経費	間接経費	研究課題
基盤研究(C) 一般(基金)	宮地 茂 医学部 脳神経外科学, 教授	1,200 (継続)	360	脳血管内治療支援ロボットの開発
〃	梅村 弘 医学部 衛生学, 講師	1,100 (継続)	330	南アジアにおける大気汚染と健康障害：都市と農村の比較およびマスク介入の効果
〃	鈴木 孝太 医学部 衛生学, 教授	1,200 (継続)	360	胎児期からのライフコースを考慮した, 生活習慣病発症に関わる要因の疫学的検討
〃	佐藤 ゆか 看護学部 感染看護学, 教授	600 (継続)	180	抗微生物薬物療法に関する看護実践と看護継続教育の全国実態調査
〃	山幡 朗子 看護学部 基礎看護学, 准教授	600 (継続)	180	過敏性腸症候群患者に対する生活習慣改善を促す看護援助プログラム作成に関する研究
〃	山本 恵美子 看護学部 基礎看護学, 准教授	500 (継続)	150	「介護安全」のための職種特性を活かした連携安全力の測定と教育実践
〃	荻野 朋子 看護学部 老年看護学, 准教授	800 (継続)	240	写真療法が軽度から中等度の認知症高齢者のQOLに及ぼす効果に関する研究
〃	阿部 恵子 看護学部 臨床実践看護学, 教授	1,100 (継続)	330	4年間の地域包括的ケア体験学習プログラムの構築と看護OSCEによる評価
〃	前田 圭介 医学部 緩和ケアセンター, 准教授	1,000 (継続)	300	サルコペニアの摂食嚥下障害の診断, 有病率, リスク因子に関する研究
〃	青野 修一 医学部 疼痛アークマネジメント専門講師, 講師	700 (継続)	210	質問紙への回答に対する信頼度評価法の開発と疼痛問診システムへの応用
〃	仙石 昌也 医学部 物理学, 准教授	700	210	クラウドを利用した協働作業プロセスの定量的指標の開発と評価への応用
〃	猪子 誠人 医学部 病理学, 講師	1,300	390	上皮組織が階層分化する仕組みの細胞生物学的理解
〃	佐藤 元彦 医学部 生理学, 教授	1,100	330	G蛋白活性調節因子制御による肺高血圧の治療
〃	笠井 謙次 医学部 病理学, 教授	1,500	450	トリプルネガティブ乳癌における新規核内蛋白ネットワークによる細胞増殖特性
〃	山崎 達也 医学部 感染・免疫学, 助教	1,000	300	自然免疫受容体に対するアゴニスト抗体のワクチンアジュバントへの応用
〃	池野 正史 医学部 生物学, 准教授	1,500	450	悪性グリオーマ治療の製剤化に向けたHSVtk遺伝子導入細胞株の構築
〃	牛田 享宏 医学部 学際的痛みセンター, 教授	1,300	390	骨格筋再生による疼痛性瘢痕治療法の研究：間葉系幹細胞の選択と細胞外環境の解析
〃	道 勇 医学部 内科学(神経内科), 教授	1,300	390	疾患iPS細胞を用いた球脊髄性筋萎縮症の骨格筋病態の解明
〃	伊藤 清顕 医学部 内科学(肝胆臓内科), 教授(特任)	1,100	330	B型肝炎再活性化や発癌の原因となるエンベロープ蛋白質追加糖鎖修飾の分布と機能解析
〃	高村 祥子 医学部 感染・免疫学, 教授	1,300	390	脂質会合タンパクの動脈硬化における役割解明と治療応用
〃	細川 好孝 医学部 生化学, 教授	1,200	360	胸膜中皮腫の予後改善を目指した診断マーカーと阻害化合物の探索
〃	勝野 敬之 医学部 内科学(腎臓・リウマチ膠原病内科), 准教授	1,100	330	補体活性と糖鎖異常に着目した二次性血栓性微小血管症(TMA)の病態解明

研究種目	研究代表者	直接経費	間接経費	研究課題
基盤研究(C) 一般(基金)	花村 一朗 医学部 内科学(血液内科), 教授(特任)	1,200	360	ゲノム編集によるFLT3変異改変ヒト白血病細胞の作製と新規治療法の探索
〃	松下 宏 医学部 産科・婦人科, 准教授(特任)	700	210	若年女性に増加している子宮内膜症は閉経後骨粗鬆症の危険因子か?
〃	中野 正吾 医学部 外科学(乳腺・内分泌外科), 教授	1,700	510	バーチャルリアリティ技術を用いたMRI非腫瘍性乳癌手術支援システムの開発
〃	松岡 裕 医学部 外科学(腎移植外科), 助教	1,300	390	長期生着を目指したIndividual immune monitoringの構築
〃	畑山 直之 医学部 解剖学, 講師	900	270	ガスメディエータ送達技術の拡大適応ドナー臓器への応用
〃	シバスタンカルナン 医学部 生化学, 講師	1,000	300	ゲノム医療を目指した遺伝子異常に基づく悪性中皮腫発症機構の解明と治療標的の探索
〃	畠山 登 医学部 麻酔科学, 教授(特任)	1,100	330	敗血症性心筋症の病態生理学的解明およびカテコラミン類修飾作用の研究
〃	高木 潤子 医学部 内科学(内分泌・代謝内科), 教授(特任)	700	210	家族性膝蓋骨無形成症の新規原因遺伝子の同定と疾患発症機序の解析
〃	三輪 祐子 医学部 腎疾患・移植免疫学寄附講座, 助教	1,200	360	腎移植におけるBKウイルスモニタリングシステムによるグラフト長期生着への取り組み
〃	瓶井 資弘 医学部 眼科学, 教授	1,400	420	虚血網膜の再灌流メカニズムの解明
〃	池上 啓介 医学部 生理学, 助教	2,200	660	眼圧概日リズムの分子制御機構の解明
〃	柴田 英治 医学部 衛生学, 教授(特任)	1,500	450	肺内各種繊維状粉じん曝露指標の解析によるわが国の空気環境の経年変化の解析
〃	篠田 かおる 看護学部 基礎看護学, 准教授	700	210	医療器材及び医療従事者の手指の洗浄・殺菌に適したファインバブルの条件に関する研究
〃	白井 裕子 看護学部 在宅看護学, 准教授	1,300	390	野宿生活者が路上にとどまる理由-野宿生活の長期化に影響を与える野宿生活者の経験-
〃	田中 結花子 看護学部 老年看護学, 准教授	800	240	シングル介護を担う就労者の援助要請とQOLとの関連
〃	大道 裕介 医学部 解剖学, 講師	1,100	330	身体不活動による病的疼痛の光遺伝学的解析と理学療法効果の科学的検証
〃	中野 雄介 医学部 循環器内科, 講師	1,500	450	中性脂肪蓄積心血管症に対する特異的栄養療法の動脈硬化抑制効果に関する検討
基盤研究(C) 一般(基金)	笹倉 寛之 医学部 生物学, 特別研究助教	1,500	450	補酵素PQQで惹起されるレドックスシグナルによる細胞外マトリックスリモデリング
挑戦的萌芽研究 (基金)	浅野 いずみ 看護学部 地域看護学, 講師	(延長)	0	発達障害を疑われた外国人未就学児と親のための療育支援モデルの検討
挑戦的研究(萌芽) (基金)	岡田 洋平 医学部 内科学(神経内科), 准教授	1,000 (継続)	300	CAGリピート編集によるポリグルタミン病の根治的治療法の開発
〃	小林 孝彰 医学部 外科学(腎移植外科), 教授	2,100 (継続)	630	腎移植における精密医療の導入: TCR/BCR制御によるHLAミスマッチの克服

研究種目	研究代表者	直接経費	間接経費	研究課題
若手研究 (基 金)	兵 頭 寿 典 医 学 部 生 化 学, 講 師	1,000 (継 続)	300	新たな分裂制御機構である収縮環における収縮「速度」制御の機能解析
〃	佐 藤 啓 医 学 部 病 理 診 断 科, 助 教	900 (継 続)	270	血管免疫芽球性T細胞リンパ腫の発生機構および臨床病理学的特徴の解明
〃	井 戸 美 来 医 学 部 乳 腺・内 分 泌 外 科, 助 教 (医 員 助 教)	1,000 (継 続)	300	網羅的遺伝子解析から抽出した遺伝子産物を指標とする乳癌細分類の試み
〃	伊 藤 卓 治 客 員 研 究 員	1,600 (継 続)	480	疾患iPS細胞を用いた運動ニューロン疾患の神経・筋相互作用分子基盤の解明
〃	竹 内 伸 行 医 学 部 精 神 神 経 科, 助 教 (医 員 助 教)	400 (継 続)	120	大脳皮質内における痛覚抑制の検出
〃	岩 山 秀 之 医 学 部 小 児 科 学, 講 師	1,000 (継 続)	300	MCT8異常症の新規診断法と治療法の開発, および発達遅滞児を対象とした大規模解析
〃	矢 倉 富 子 医 学 部 解 剖 学, 助 教	1,800 (継 続)	540	高圧メディカルガスによる血小板保存効果の検証
〃	山 岸 由 佳 医 学 部 感 染 症 科, 教 授 (特 任)	1,000 (継 続)	300	腔内マイクロビオータ解析に基づく女性生殖器感染症に対するテーラーメイド治療法の開発
〃	姫 野 龍 仁 医 学 部 内 科 学 (糖 尿 病 内 科), 講 師	1,100 (継 続)	330	糖尿病性多発神経障害におけるinsulin-Notch連関を介した再生機構の意義
〃	森 島 達 観 医 学 部 整 形 外 科, 講 師	700 (継 続)	210	最小侵襲手術に対応可能なセメントステムの有限要素モデルを用いた開発
〃	渡 邊 將 人 医 学 部 泌 尿 器 科, 助 教	1,300 (継 続)	390	CCR4陽性Tregに着目した前立腺癌に対する免疫治療確立に関する研究
〃	山 中 真 看 護 学 部 臨 床 実 践 看 護 学, 准 教 授	400 (継 続)	120	高度実践看護師の実践技術の可視化
〃	角 田 拓 実 医 学 部 病 理 学, 助 教	1,600	480	乳癌における新規膜蛋白FAM189A2のエンドサイトーシス制御機構の解明
〃	内 野 か お り 医 学 部 血 液 内 科, 助 教	800	240	造血細胞移植の腸管免疫をToll様受容体で紐解く
〃	田 口 宗 太 郎 医 学 部 脳 卒 中 セ ン タ ー, 助 教	1,300	390	パーキンソン病治療効果の客観的判定手段としての脳血流SPECT検査の有用性
〃	森 麻 里 医 学 部 周 産 期 母 子 医 療 セ ン タ ー, 助 教	300	90	NICU入院中の早期運動負荷による新たな早産児の発育改善への試み
〃	土 本 純 分 子 医 学 研 究 所 助 教	1,100	330	尿を用いた非侵襲性肝細胞がん腫瘍マーカーの開発 ビクニン上の糖鎖構造を標的として
〃	鬼 無 洋 医 学 部 内 科 学 (腎 臓・リウマチ膠原病内科), 講 師	1,600	480	多発性嚢胞腎におけるリンパ管新生の意義の解明と新規治療法の開発
〃	高 間 寛 之 医 学 部 皮 膚 科 学, 講 師	1,600	480	掌蹠膿疱症の病態におけるマイクロバイオームの役割とアプレミラストの作用機序の解析
〃	成 定 明 彦 医 学 部 産 業 保 健 科 学 セ ン タ ー, 講 師	1,300	390	隠れマルコフモデルによる糖尿病発症モデル構築と糖尿病発症予防への展開
〃	平 澤 敦 彦 医 学 部 整 形 外 科 学, 助 教	2,700	810	糖代謝異常への早期介入による靭帯骨化症是正の可能性を探る研究
〃	谷 口 千 枝 看 護 学 部 成 人 看 護 学, 講 師	900	270	看護職のための簡便かつ効果的な禁煙サポートツールの開発と評価

研究種目	研究代表者	直接経費	間接経費	研究課題
若手研究 (基金)	王超辰 医学部 公衆衛生学, 助教	1,600	480	Circadian eating patterns and their associations with chronic diseases in the general population.
若手研究(B) (基金)	伊藤秀明 医学部 病理学, 助教	(延長)	0	ヘッジホッグ関連因子STILによる浸潤突起を介した膵臓癌浸潤機構の解明
〃	谷口千枝 看護学 成人看護学, 講師	(延長)	0	看護介入における, より簡便で実用的なタバコ渴望感尺度の開発と妥当性の検討
〃	武藤太一朗 医学部 小児科, 講師	(延長)	0	乳児アレルギーの発症とアレルギーマーチに関わる胎内環境と発症予測マーカーの研究
〃	高間寛之 医学部 皮膚科学, 講師	(延長)	0	異常性乾癬に対するEGFR阻害薬を用いた新規外用療法の開発
〃	小林郁生 医学部 泌尿器科学, 助教	(延長)	0	腎癌細胞におけるArtemisinin誘導体の抗腫瘍作用の検討
〃	坪井孝太郎 医学部 眼科学, 助教	(延長)	0	毛様体解離による眼圧コントロール
〃	古橋明文 医学部 歯科口腔外科, 講師	(延長)	0	閉鎖性睡眠時無呼吸における新たなスクリーニング検査法の開発
〃	黒澤昌洋 看護学 臨床実践看護学, 講師	(延長)	0	看護師特定行為研修(区分別科目)の教育システム開発に関する研究
〃	丸地佑樹 医学部 救急診療部, 助教	500 (継続)	150	敗血症性獲得免疫障害:T細胞受容体遺伝子分析によるレパトア形成能の解析
〃	林文子 看護学 母子看護学, 助教	100 (継続)	30	妊娠糖尿病の発症予防を目的とした妊婦の身体活動支援プログラムの構築
〃	橋本隆 医学部 薬理学, 助教	1,200 (継続)	360	ヘッジホッグシグナリングに基づく腸管発生と神経コネクトミクス
研究活動スタート支援 (基金)	篠壁多恵 医学部 公衆衛生学, 助教	1,100 (継続)	330	炭水化物・脂肪酸摂取と遺伝子多型の脂質異常症発症への影響
奨励研究 (補助金)	塩入達政 分子医科学研究所 助手	540	0	グリコサミノグリカン合成修飾操作による肥満細胞顆粒ヒスタミン貯蔵制御
〃	林和寛 リハビリテーション部 理学療法士	530	0	バーチャルリアリティと運動療法の組み合わせが痛みに及ぼす影響の検証

- ・ 令和元年7月1日時点の情報を掲載
- ・ 研究種目及び課題番号順にて記載
- ・ 氏名は, e-Rad (府省共通研究開発管理システム) 研究者登録名にて記載
- ・ 「交付決定通知」及び「交付申請書」を基に作成
- ・ 令和元年7月までの転入転出を含む
- ・ 基金については, 今年度請求額を記載

～大学・病院を支える笑顔豊かなスタッフ陣～

「Smile ～スマイル～」では、大学・病院で活躍する職員の笑顔にスポットライトを当てて、各部署における活動内容や取組などについて、紹介いたします。

栄養部

栄養部は、本院中央診療部に属し、管理栄養士13名、調理師30名が所属しています。

栄養部の業務は主に、入院患者さんへの食事の提供を行う食事療養部門と、患者さんへの栄養指導（相談）等を行う臨床栄養部門に分けられています。

患者さんへの食事の提供は、平成26年度の新病院オープンに合わせてニュークックチルシステムを導入しています。このシステムは、食事提供の数日前に、計画的に調理生産し急速冷却・チルド保存（0℃～3℃）した後、食事提供時に再加熱して、配食するシステムです。このシステムの導入により、給食業務衛生面の向上、食事の品質向上・安定化、そして何よりも各病棟の患者さんに対し、適時・適温での食事提供が可能となりました。入院患者さんにとって食事は治療の一環と同時に楽しみの一つであると思います。日々の食事から季節を感じて頂ける食材を用いた食事の提供と、季節毎の行事食等を年に数回提供しています。

また、臨床栄養部門では、栄養指導（相談）を始め、NST、緩和ケア等のチーム医療への参画、並びにベッドサイド等での食事の聞き取り等、積極的な病棟活動を行っています。不規則な食生活や運動不足は病気を引き起こす要因となります。医師の指示の下、早期に栄養指導（相談）を受けて頂くことで改善が期待できると思います。※適正エネルギー量（kcal）は体重（kg）×25～30（kcal）で算出できます。

病院食は生きた教材であり、食事療養部門と臨床栄養



調理室



事務室

部門が協力して、患者さんの治療・食生活の改善等の支援に取り組んでいます。

地域看護学

地域看護学領域は4名の教員で構成されています。

地域看護学は、乳幼児から高齢者まであらゆる年代や様々な健康レベルにある地域住民の健康水準の向上を目指す看護です。地域住民との協働のもと、地域の強みに焦点をあて、健康的な環境を創り上げていくアプローチが特色です。学部教育で担当している看護専門科目は「地域看護学概論」、「健康教育論」、「地域看護学援助論」、「保健指導論」、「公衆衛生看護学実習」等です。

教員たちは大学内だけではなく、県内外の保健師研修や住民組織の支援などにも積極的に取り組んでいます。学生たちにも活動に参加してもらい、地域住民の豊かな実践を学ぶ機会とすることもあります。また、卒業生同士がつながり支え合えるよう、保健師として就業している卒業生の会「りほんの会」を毎年開催しています。

大学院教育では行政や福祉・産業・医療・教育分野など多様な分野で働きながら研究に取り組む院生たちと研



地域看護学教員

究を進めています。教員は各自のバックグラウンドを活かし、地域看護実践の場を重視した研究（保健師のキャリア支援、在留外国人支援、地域組織活動や食育活動等）に取り組んでおります。

今後も実践の場で役立つ人材養成や研究に取り組んでいきたいと思っています。

規 則

規則の制定・改廃情報をお知らせします。

学長規程の全部改正等

愛知医科大学学長規程の全部が改正され、学長候補者の選考方法等が改められました。

この改正に伴い、次の関係規則が整備されました。

施行日はいずれも令和元年5月27日

【一部改正】

- ・学校法人愛知医科大学内部監査規程

【廃止】

- ・愛知医科大学学長候補者選考規程

情報公開に関する規程の制定等

法人の運営及び教育研究活動等の諸事業に係る社会的説明責任を果たし、公正かつ透明性の高い運営を実現していくため、次の関係規則が整備されました。

施行日はいずれも令和元年6月10日

【新規制定】

- ・学校法人愛知医科大学情報公開に関する規程

【一部改正】

- ・学校法人愛知医科大学財務情報公開に関する規程

奨学寄附金会計処理要項の一部改正

愛知医科大学奨学寄附金会計処理要項の一部が改正され、研究寄附金からの控除割合が改められました。

施行日は令和元年8月1日

臨床系教員学外研修取扱規程の一部改正

臨床系教員学外研修取扱規程の一部が改正され、臨床系教員学外研修願の様式が改められました。

施行日は令和元年5月1日

医学研究科履修規程の一部改正

愛知医科大学大学院医学研究科履修規程の一部が改正され、授業科目として「医療安全管理学」が設置されました。

施行日は令和元年6月1日

災害医療研究センター運営委員会規程の一部改正

愛知医科大学災害医療研究センター運営委員会規程の一部が改正され、災害医療研究センター運営委員会の委員構成が改められました。

施行日は令和元年5月1日

クリニカルパス推進委員会規程の一部改正

愛知医科大学病院クリニカルパス推進委員会規程の一部が改正され、クリニカルパス推進委員会の委員構成等が改められました。

施行日は令和元年6月1日

「愛知医科大学病院医療安全管理室及び医療安全管理者の業務等について」の一部改正

令和元年6月1日付けで「愛知医科大学病院医療安全管理室及び医療安全管理者の業務等について」（病院長裁定）の一部が改正され、医療安全管理室の組織構成が改められました。

育児休業等に関する規程の一部改正等

育児又は介護のため、深夜業の制限を請求する期間を、所定外労働・時間外労働の制限請求期間に合わせ、請求手続・管理の効率化を行うため、次の整備がされました。

施行日はいずれも令和元年6月17日

【一部改正】

- ・学校法人愛知医科大学育児休業等に関する規程
- ・学校法人愛知医科大学介護休業等に関する規程

構内における車両の規制に関する規程の一部改正

学校法人愛知医科大学構内における車両の規制に関する規程の一部が改正され、委託業者及び出入業者の駐車場使用料が改められました。

施行日は平成31年4月1日